

2 0 2 0 年度

F D 報告集

帝塚山大学 全学教育開発センター

令和2年度FD報告集の刊行によせて

本学では、平成14年度にFD推進室を設置、平成24年度にはFD推進室、学習支援室、全学共通教育センターの3つを統合・改組して全学教育開発センターを設置し、当センターが主体となって大学全体のFDを推進してきた。具体的な活動については本報告集に記載のとおりであるが、今年度は突然のコロナ禍により、多くの活動について当初の計画の変更を余儀なくされた。

例えば、本学では今年度の授業は、前期が原則遠隔授業であり、後期も多くの授業が遠隔で行われたことから、対面授業を前提に計画していた授業改善アンケートについて、実施方法の変更ならびにアンケート項目の全面的な見直しを行った。当アンケートは、例年、学期内での改善を目的に期中に行っているが、今年度前期は授業開始が大幅に遅れたこともあり、実施することができなかった。ただ、それに代わるものとして、後期の授業改善につながるよう、前期終講後に、前期の遠隔授業における個々の教員の取り組みを学部内で共有する意見交換会を実施した。

対面授業を前提とする公開授業・授業参観は前後期とも実施できなかったが、学習支援室主催の各種講座は、後期のものについては、本学のeラーニングシステムであるTALESを通じての教材配信を併用することによって行うことができた。また、学内FDフォーラムも、外部講師による遠隔授業の設計に関する講演と本学教員による遠隔授業実践例に関する報告を遠隔会議システムを使用して行うことにより、非常勤講師も含め、多くの教職員の参加を得ることができた。

多様な入試によって多様な学習動機・学力の学生が入学する中、それらの学生を教育面で満足させるには、授業運営における各教員のさらなる工夫と学科等の組織による有効な対応が求められるところであり、今後とも当センターが中心となって、各種FD活動を通じて全学的な教育改善が行えるよう取り組んでいきたい。

令和3年3月

帝塚山大学 全学教育開発センター長

大西 智之

目次

F D 報告集の刊行によせて

前期遠隔授業を受けての学部内 F D 1

授業改善アンケート 13

学生ヒアリング 63

F D フォーラム 75

公開授業 79

全学教育開発センター運営委員会 83

全学教育開発センター F D 推進検討チーム 91

前期遠隔授業を受けての 学部内F D

前期遠隔授業を受けての学部内 F D について

2020 年度前期は、ほとんどの教員ならびに学生が遠隔授業の経験がない中で、試行錯誤しながら遠隔授業に取り組んだが、必ずしも期待された成果をあげることができなかった。後期では前期よりも学生の満足度を高めることを目的とし、各学部・学科および全学教育開発センター内で、以下のとおり意見交換がおこなわれた。

文学部

文学部ではすでに 2020 年 6 月・7 月に学生に対するアンケートや個人面談などを実施し、遠隔授業に対する学生の意見や困り事を聴取する機会を設け、その結果を学部教授会や学科会議で検討してきた。これを踏まえつつ、10 月 21 日（水）の文学部教授会ではあらためて前期授業を振り返り、後期の遠隔授業において教育効果を維持し、学生の満足度を高めるための方策を意見交換した。各教員から出た意見等を以下の 3 点にまとめ、後期の遠隔授業実施にあたっての共有事項とした。

1. Zoom を利用した演習・ゼミ実施について

マスクをせずに発話できる点、互いの顔が見える安心感など、とくに少人数の演習・ゼミなどでは対面授業に近い教育効果を得られたとの意見が出た。画面共有機能の利用によって、「皆が同じ画面を見ることで一体感を感じた」、「対面時よりも授業に集中できた」など、学生からもおおむね好評だった。授業後にしばらく Zoom を終了せず、学生同士が雑談する機会を設けた教員もあり、Zoom の利点を活かした授業や学生の交流を促す取り組みを今後も継続する。

2. 遠隔授業における課題の内容と分量について

講義資料とともに動画や音声データを作成・提供するなど工夫し、理解度を確認するための小テストや小レポートなどを課した。授業終了時間の制約がないため、対面授業以上に熱心に課題に取り組む学生が増加するなど、一定の利点があった。また、オンデマンド型授業の場合は学生相互の交流が対面授業に比べて制限されるため、学生が提出した小レポートやコメントを紹介して他の学生が何を考えているのかを共有することも試みた。課題に対するフィードバックも、可能な限り一人ひとりの学生に対して個別にコメントを付けることで、きめ細やかな指導と、教員との距離の近さを学生が体感できるよう工夫した。

一方で、資料・動画・音声を確認した上で課題に取り組んだ場合、90 分を大幅に上回る時間を要することがあり、結果的に学生たちが複数の授業課題に追われて消耗する様子もみられた。この点に鑑み、資料・動画・音声の視聴など授業内容を理解する時間と、課題や小テストに取り組む時間とを合わせて 90 分程度になるよう授業を構成することを目安とし（予習・復習は別途指示）、課題内容についても小テストと小レポートなどをうまく組み合わせることで、学生の過重な負担を避けることとした。

3. 受講タイミング・出席確認方法・学生との連絡について

後期は原則としてオンデマンド型授業を実施しているため、学生は必ずしも正規の授業時間帯に受講するとは限らない。したがって、出席確認を授業時間内に行わない、課題提出時間や小テストの実施時間を授業時間内のみ限定せず 1 週間前後の余裕を持たせること、TALES のカレンダー機能を利用した課題提出期限の明示な

ど、学生たちが不安なく授業や課題に取り組めるよう配慮した。また、前期に引き続き、TALES のメッセージ機能やメールを通じた学生からの質問には可能な限り速やかに応じるよう努める。

経済経営・経済・経営学部

事前に意見をメールにて収集し、それを基に 9 月 16 日（水）開催の教授会にて議論をおこなった。

1. 採用された遠隔授業の方法について

Zoom でリアルタイム、TALES に資料を置く、Vimeo 等に動画を置き TALES からリンクをはるなど、授業ごとに組み合わせている。

2. 遠隔授業の長所、よかったところ

録画映像教材を作ることで学生が分からないところを見直すようになった。対面より学生の書き込みが多く学生の考えがよく分かった。資料を紙で配布するよりも管理が効率化できた。事前に課題をおいておくと学生は予習して授業に臨んだ。毎回の課題やアンケートで学生の理解度を確かめながら進行できた。オンラインの方が質問しやすいという学生がいた。学生にとってリラックスできたようだ。オンデマンドだと好きな時間に取り組め、何度も見たりできる。教員自身が授業資料を大幅に見直すきっかけになった。毎回のレポートで文章力が向上したという学生がいた。オンラインのチャット等で学生の質問や意見表明が普段の教室よりも活発になった。毎回の課題にこまめにフィードバックしたので指導の内容が濃くなった。Zoom のブレイクアウトセッションを活用しグループワークを活性化できた。Slack を利用し、時間外の交流が深まった。講義動画を残すことで復習が容易になった。

3. 遠隔授業の短所、うまくいかなかったところ

学生の反応を逐一確認しながら進めるわけではないのでスピードが速くなっていた。対面だとわからない風の学生が目につき声をかけることができるが、オンラインではできない。一人ひとりの理解度がわからない。一方的に話すだけになってしまう。教室での試験ができず成績評価が難しい。録画時間が長すぎた。音声を文字におこしたため時間を要し疲れた。学生が講義に集中しているかわかりづらい。オンラインのテストは持ち込み可となってしまうことで成績評価が難しい。モチベーションが続かないという学生からの意見があった。

4. 後期に向けて改善したい点

長い動画ではなく、短い動画を複数作成する。録画の途中に問題を解く時間を入れるなどして、一方向にならない教材づくりをする。動画時間を短くし、音質を上げ、動画を編集する。学生の集中力を高める工夫をしたい。

5. その他

課題がたまるとあきらめる学生がいるので、締め切りの設定など工夫したい。学生への適切なフィードバックの方法を教えてほしい。教員自身が動画をアップできる仕組みが欲しい。対面授業であっても TALES を活用したい。他の先生の教材を一部閲覧したい。授業方法を学生に質問すると「今のままでいい」という意見があり意外だった。一部の学生たちの提出物が同一であった。これは深刻な問題かもしれない。

法学部

〈実施日時〉 9月16日（水）教授会終了後2時間程度

〈参加者〉 法学部専任教員11名（出張のため2名欠席）

〈実施目的〉 初めての全科目遠隔化となった前期の学部レベルの問題点を洗い出し、後期遠隔授業の学部レベルでの改善の起点とする。

〈実施概要〉

1. 遠隔授業の現状・課題の共有

まず、前期の問題点を探るため、各教員が学生から聞いた意見を共有した。そのうち主な課題は下記の通りであった。

- ①課題の期限がわかりにくい
- ②課題が多すぎる

2. 改善策の意見交換・工夫の共有

上記2点の課題に対して以下のような改善策の共有を行なった。

①に関する解決策として、TALES上で課題タイトルに期限を明記すること、期限をTALESのシステム上で設定すること（学生のTALESカレンダーに一括表示される）の2点を申し合わせた。

②に関する解決策と遠隔授業の情報共有として、前期各教員の1コマあたりの課題の内容と想定学習時間について、各自が説明した。想定学習時間が突出するような課題を出していた教員はいなかったものの各教員が僅かに多めに課題を出すことが重なれば、学生の受講時間割によってはそれが重なった大きな負担になってしまう点を確認し、後期は課題の分量には細心に注意を払うことを申し合わせた。

また真面目な学生には想定学習時間を大幅に越えて課題に取り組んでいるものもいるとの指摘もあった。後期は対面形式の演習で学生と定期的に接する機会があるため、演習での対面時に各学生が課題をどのように取り組んでいるか、過大な負担となっていないかを常に注意し声掛けなどを行なう必要性が確認された。

心理学部

前期遠隔授業についての振り返り

★科目のスケジュール管理

- TALESにおける提出期限や提出場所が科目により異なったため、学生の対応に混乱が生じた。
- TALESのダッシュボード（カレンダー）に各科目の提出期限が反映されておらず、課題提出に支障が出る場合があった。
- 課題提出の締め切りが科目により異なり、特に締め切りが早過ぎるものは対応することが難しかったようである。

★システムについて

- TALES への授業資料のアップロードの時間帯が科目内で統一されていないものがあった。
- 科目の担当教員に TALES のメッセージ機能を使っても、返信が遅いことがあった。
- 科目によって出席登録の方法が異なっていたため、混乱をきたす場合があった。

★授業方法について

- 課題に関する説明・解説の資料がなく、課題のみが出される授業があった。
- 教科書だけを読み進めていく授業があった。
- パワーポイントの資料のみで、音声解説や動画解説がないものあり、授業内容を理解することが難しいものがあった。
- Zoom を使用したリアルタイムな授業を求める声が多かった。
- 対面授業を求める声もあった。

★課題等のフィードバックについて

- 全体的に課題等のフィードバックがもう少し欲しいとの声があった。
- 質問に対する返答が遅いことがあった。
- メール等での質問することは難しく感じるとの声があった。

★課題の量について

- 課題量が膨大で、その対応でストレスを抱えるという声が多々あった。
- 課題量と提出期限のバランスが悪いものがあった（課題量が多いのに、提出期限は短いなど）。

★その他（１）

- 自宅の通信環境が整っていないため、遠隔授業を受けるのが困難であった。
- 自宅の通信環境が不安定であった。
- 自宅に自分用のパソコンがなく、遠隔授業を受けることが困難であった。また、スマホではパワーポイントの資料はきちんと閲覧することができなかったとのこと。
- 自宅で自由にパソコンを使用できない学生のことをあまり考えていないとの声があった。
- 授業資料を印刷することが困難であった（自宅にプリンターがないなど）。

★その他（２）

- ずっと自宅にいるため、気持ちの切り替えが難しく、勉強に集中できないとの声があった。
- 自宅だとモチベーションが上がらず、勉強に身が入らなかったとの声があった。
- 遠隔授業になったことで、生活スタイルが乱れてしまったとのこと。
- 大学に行けないことで、友達と会えずに精神的に不安定になったとのこと。
- 大学に行けないことで、友達ができず、今後の学生生活が不安との声があった（１年生）。

後期授業に向けての改善案

1. 課題の提出期限の明確化

提出期限は資料の中に記載するだけでなく、TALES のトップページ（資料を開かなくても見えるところに）などに記載するのが良い。

2. 課題の量の適切さに留意する

課題は必ずしも毎回出さなくてもよいことを教員間で共有する。他の科目でも大量の課題が出されていることをそれぞれが考慮して、課題提出を行う。

3. キャンパススクエアへの迅速な出席入力と出席および課題提出の期限の明確化

出席は迅速に取る必要があるため、少なくとも 1 週間以内（できれば当日中）に取るようにする。課題提出はある程度の期限を設けた方が良いので、出席と課題提出を分けることも可能とする。出席をどのように取るかは 1 回目の授業やシラバスで明確に伝えるようにする。

例 1：キーワードを伝え、正規の授業時間内に CS に入力させる

例 2：TALES のフィードバック機能などで出席入力フォームを作成。当日中に回答させるなど

4. 学生からの質問への対応の迅速さと方法の統一

学生が質問する際にどのようにしたらよいのかを明確に提示し、TALES の分かりやすい位置に記載する。

5. 授業資料の提示時間の統一

すべての授業が正規の授業時間に資料を公開するように設定する。TALES の利用制限機能を使用する。

6. 授業方法の工夫

課題提示だけの授業は NG とする。課題を実施するための情報提供（＝講義）を十分に行う。

課題提示だけの授業はもちろんのこと、資料提示だけの授業も良くないので、工夫が必要である。

例) 音声入りスライドの動画作成

*** 動画のアップ方法**

①vimeo を用いる

URL（リンク）を TALES に置く

②外部ストレージ（Google Drive, Dropbox, OneDrive など）を用いる

URL（リンク）を TALES に置く

7. フィードバックの徹底

課題を出した場合は、後日に正解を提示したり、提出物を返却したり、質問への回答を共有するなどフィードバックを徹底する。

課題へのフィードバックが困難な場合は、フィードバックが必要でない課題を出す（授業の感想など）

→その場合でもフィードバック（こんな感想があったよ）はあったほうが良い。

8. 課題が提出できたかを学生が確認できるように工夫

- ・実際は難しい場合もあるが、できるだけ実施するようにする。
- ・TALES の「課題」機能だと提出の有無がわかるので、それを利用する（ただし、「フィードバック」機能だとわからない）。
- ・Google form では「回答のコピーを送信」という機能を用いるなど（メールアドレスの入力が必要）。

現代生活学部

日時：2020 年 9 月 16 日(水)15:00～16:10(教授会前)

場所：(学園前キャンパス)16 号館 4 階 大会議室

出席者：辻川学部長、新宅学科長、戸倉学科長 以下五十音順、敬称略

(食物栄養学科) 阿部、石塚(司会・記録)、伊藤、岩橋、木村、佐伯、中、藤原、藤村、柳

(居住空間デザイン学科) 大里、金谷、北澤、竹内、間瀬、矢部、報告委任 小菅

1-前期授業を終えての感想

- ・教員側も初めての遠隔授業のため準備に時間がかかった。
- ・課題を提供することが多かったが、その評価が週に数百にも上り労力を要した。
- ・対面授業に比べ、成績評価が全体的に甘くなった。
- ・対面授業に比べ、とびぬけて優秀な学生・悪い学生とも少なくなり、中庸が多くなった。
- ・課題提出の遅い学生、アドバイザーからのメール連絡等が付きにくい学生は、「不可」が多い傾向にある。

2-授業で工夫し、良かった点と反省点

- ・Zoom を用いたオンタイム授業をすることで、時間管理、双方向性質疑など対面授業に比べて質を落とさないよう工夫した。
- ・Zoom のグループワーク機能、チャット機能を活用すると、授業に参加せざるを得ないので、対面授業よりも学生の反応が良かった。
- ・手元を写す WEB カメラを活用することによって対面授業よりも教育効果があがった。
- ・動画は 15 分程度に区切って考える時間等を取る方がよかった。
- ・音声付きパワーポイントのオンデマンド授業では、自宅ですべて、何回も復習できるので自分のペースで学習できるという学生からの評価があった。
- ・周囲に頼れないため教科書をよく読むようになった。

3-反省点を踏まえた今後の対策

- ・ 定期試験としての最終レポートは分量も多く、提出期限が早かったので、授業内に Google form や TALES の小テスト機能を活用して知識確認を行った方がよい。
- ・ Google form 等でのテストはカンニング対策が必要である。
- ・ 提出課題へのフィードバックは、次回課題に生かすためになるべく早く返す。
- ・ WIFI やパソコンを所持しているかで、学力に差がつかないように支援が必要である。
- ・ 質問を引き出す授業内容、課題の量と質を検討する。

4-アドバイザー学生の成績状況から見られた前期授業全体における問題点と課題

- ・ 1 年生は特に、活発な学生は同級生と SNS 等で情報交換できたが、コミュニケーションが苦手な学生への支援が必要である。
- ・ 例年は落第者が少ない教養科目、語学科目で「不可」が多かった。
- ・ それらの科目では、学生が質問をしても返事が返ってこない等の不満が聞かれた。

5-その他

- ・ 学外実習の身だしなみや心構えに対する事前教育は、Zoom 等では不十分で、対面での厳しい指導が必要である。(例年より実習先からの指摘が多い)

教育学部

日時：2020 年 9 月 16 日(18108 音楽室、学科会議終了後) 参加者：教育学部専任教員

内容：(1)前期の遠隔授業についての改善点等⇒TALES を使用し意見集約・共有を実施

(2)TALES のファイルマネージャー機能の説明

以下のような意見が出された。

- ・ 提出課題については TALES 上で受講者の解答を共有するとともに全体へのコメントを行う、課題未提出の学生へは必ず連絡をして提出を促す、知識の確認には小テストも活用する、といった工夫を行いました。Zoom での授業については、話を聞いているかどうか分かりづらい（とくに画面共有で話をしている場合）ので、一方的に話をする時間を少なくして、参加を促すような工夫が必要だと感じています。Zoom での授業の際、授業のはじめに受講者の名前を「学籍番号 氏名」に変更するよう指示しています。チャット機能でコメントさせた際、それを保存したデータを学籍番号順に並び替えやすくなるからです。TALES だと参考資料やホームページを紹介しやすく、これまで以上に学生の授業外の学習を促すことができると感じています。
- ・ 前期の単独で担当する専門科目は、ほぼオンデマンドで実施した。後期は、授業の冒頭をリアルタイムで実施するつもりである。課題については、例や参考資料を示して、できるだけ丁寧に説明することの必要性を痛感しているので、後期も心がけたい。これにフィードバックを加えることによって、きちんと取り組んだ学生は、これまでの授業以上の力をつけられるはずである。

・Zoomでの授業において、前期と同じように学生が主体的に活動する場面を設定します。全体説明→グループワーク→全体まとめグループワークのための事前課題を提出させておきます。事後課題は授業において学んだことなどをすぐにTALESに提出することにより、出席確認します。提出課題については、TALES上で受講者の解答を共有するとともに全体へのコメントを行い、課題未提出の学生へは必ず連絡をして提出を促します。

・オンデマンドで行う場合と、Zoomなどグループ作業を行う場合のバランスを考えて、退屈しないように進めて行きたい。また、Zoomを用いた話し合いの際、発言が活発に進まない時もあったので、話し合いの手順など、学生が進めやすい方法を考えておく必要があると感じた。各コンテンツの特徴を把握し、必要に応じた方法をスムーズに行えるように準備を進めたい。

全学教育開発センター

日 時：2020年9月16日（水）（センター教員会議にて）

場 所：6号館1階 6101教室

参加者：センター教員会議構成員ならびにオブザーバー教員全員（13名）

標記の件について参加教員が一人ずつ、前期の振り返りならびに後期授業に向けての課題と抱負を述べ、それについて意見交換が行われた。主な内容は次の通り。

■オンラインだからこそ、教育効果が認められた点

- ・学生がレポートに熱心に取り組み、提出率もよい。
- ・オンデマンドだと、課題提出までに時間があるので、学生が熟考できる。
- ・クイズ形式の問題作成や、その解答のフィードバックが容易にできる。
- ・学生同士のフィードバックを共有・継続することにより、学生のモチベーションや連帯感が上昇した。

■オンライン授業で工夫した点

- ・学生をアクティブに参加させるために、体操や呼吸の練習を導入で取り入れた。
- ・学生にプレゼンの動画を撮ってもらい、それを提出してもらう。
- ・学生同士で課題のフィードバックをしあう。例：ペアになって行う。
- ・オンデマンドでは、PPに音声や効果音を載せて授業にメリハリをもたせた。
- ・授業の最初にZoom等の使い方を丁寧に説明することで、学生の不安を解消した。

■オンライン授業で困った点

- ・クラス全体の雰囲気がかめめない。例：授業に乗ってこれない学生を特定しにくい。
- ・学生一人ひとりにフィードバックする量が多すぎた。
- ・授業の解説を書いてもらえなかった。
- ・実習系授業はオンラインではやりにくい。授業内容を大幅に変えなければ開講出来ない。

- ・語学の発音のレッスンで苦労した。期待したほど学生に力がついていない。
- ・オンライン入力なので、誤字脱字などのチェックができない。

■オンライン授業の今後の課題と抱負

- ・語学系の授業で学生に発音させ、それを音声ファイルに録音してもらい提出させる。
- ・課題のフィードバックをピア（学生同士）でやってもらう。
- ・学生の雰囲気や反応を見るために、授業の冒頭 30 分だけは Zoom を使う。
- ・教員からのフィードバックを増やし、なるべく一人ひとりに対応したい。
- ・学生からの問い合わせメールに受講する科目名などが記載されていない。これらをルール化し、守れるよう、小テストではじめに確認しておきたい。
- ・学生の疑問にもっと応えるために、フォーラム機能などを積極的に使用する。

■学生からの声（ポジティブ）

- ・オンデマンドの場合、自分のペースで自由に学習できるのが良い。
- ・オンラインの受講は、将来、就職してから役立つ。
- ・コミュニケーションが苦手なので、オンライン授業の方が積極的に受講できる。

■学生からの声（ネガティブ）

- ・課題が多すぎた。
- ・学生同士のコミュニケーションが少なく、とくに新入生は横のつながりを作れず不安になる。
- ・Zoom がうまく繋がらない。
- ・映画視聴の課題に対し、レンタルにお金がかかるなどの不満があった。最終的には、コロナ禍での気分転換ができると理解してもらった。

以上

授業改善アンケート

1. 2020 年度 授業改善アンケート集計結果

実施概要

前期は、当初は紙ベースでの授業改善アンケートの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、急きょ遠隔授業に転換することになったため、アンケートの実施は中止とした。

後期も多くの授業が遠隔となったが、授業改善アンケートは、本学のFD活動の中でも重要な位置付けであることから、TALES 上での WEB アンケートという形で実施することとなった。

1. 実施目的

帝塚山大学で開講されている授業をより良くするために、学生による授業改善アンケートを行い、全体的傾向を把握するとともに、各担当教員に基礎データを提供する。

2. 実施方法

<対象科目>

原則として、各教員の担当する履修者数が最も多い科目

(リレー講義、集中講義、共同担当科目、履修登録者が3名以下の科目は除く)

<調査方法>

TALES の各授業コース内で実施

3. 回収数、回答率

在学生数	対象科目数	対象科目の 延べ履修登録者数	回答数	回収率
3,652	276	16,500	7,468	45.26%

※在学生数は2020年5月1日現在

4. 実施期間

後期：2020年11月9日(月)～11月21日(土)

5. アンケート項目

対面授業、遠隔授業いずれにもあてはまる項目として、以下の 14 項目を設定した。

No.	区分	項目
①	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。 ①行われている ②ある程度行われている ③あまり行われていない ④行われていない ⑤シラバスを見ていない
②	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿って適切なものですか。 ①適切である ②ある程度適切である ③あまり適切でない ④適切でない
③	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。 ①遅い ②やや遅い ③適切 ④やや速い ⑤速い
④	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。 ①易しい ②やや易しい ③適切 ④やや難しい ⑤難しい
⑤	授業内容	あなたにとって授業内容は関心を持てるものですか。 ①関心を持てる ②ある程度関心を持てる ③あまり関心がない ④関心がない
⑥	課題の量	あなたにとってこの授業における課題量は適切だと思いますか。 ①少ない ②やや少ない ③適切 ④やや多い ⑤多い
⑦	理解度の確認	授業担当者は受講生の理解度確かめながら授業を進めていますか。 ①進めている ②ある程度進めている ③あまり進めていない ④進めていない
⑧	説明の仕方	授業担当者の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。 ①分かりやすい ②ある程度分かりやすい ③少し分かりにくい ④分かりにくい
⑨	学習支援	授業担当者から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。 ①受けられる ②ある程度受けられる ③あまり受けられない ④受けられない ⑤質問をしたことがない
⑩	フィードバック	授業担当者から課題へのフィードバックは行われていますか。 ①行われている ②ある程度行われている ③あまり行われていない ④行われていない ⑤フィードバックを確認していない
⑪	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。 ①力がついてきている ②ある程度力がついてきている ③あまり力がついていない ④力がついていない ⑤到達目標を知らない
⑫	学修時間	あなたは予習・復習、準備、課題作成も含めて、この授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか（授業時間も含める）。 ①30 分未満 ②30 分～1 時間 ③1 時間～2 時間 ④2 時間～3 時間 ⑤3 時間～4 時間 ⑥4 時間以上
⑬	意欲的な学び	あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。 ①意欲的に取り組んでいる ②ある程度意欲的に取り組んでいる ③あまり意欲的に取り組んでいない ④意欲的に取り組んでいない
⑭	授業実施方法の適切さ	この授業には本来どういう授業形態が相応しいと思いますか。 ①主に対面授業 ②主に Zoom 等を用いた遠隔授業（リアルタイム） ③主にオンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業 ④主にオンデマンドの資料配布型授業

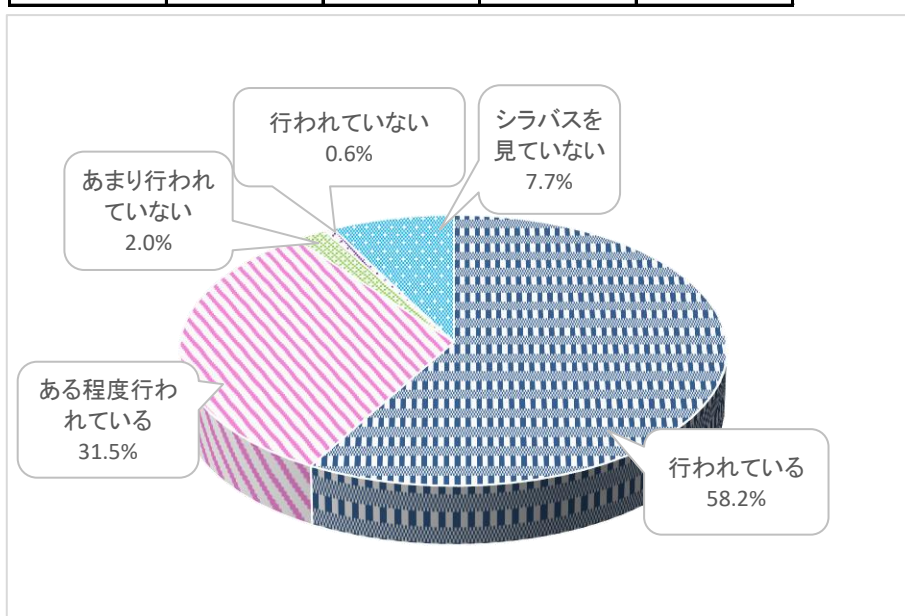
後期授業アンケート集計結果(全学部)

総履修者数	総回答数	回答率
16,500	7,468	45.26%

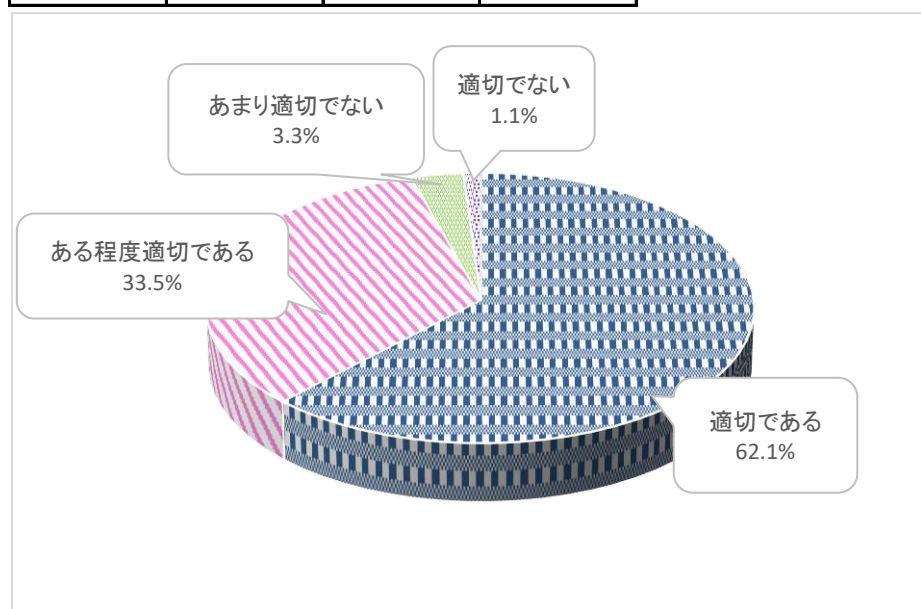
質問

回答

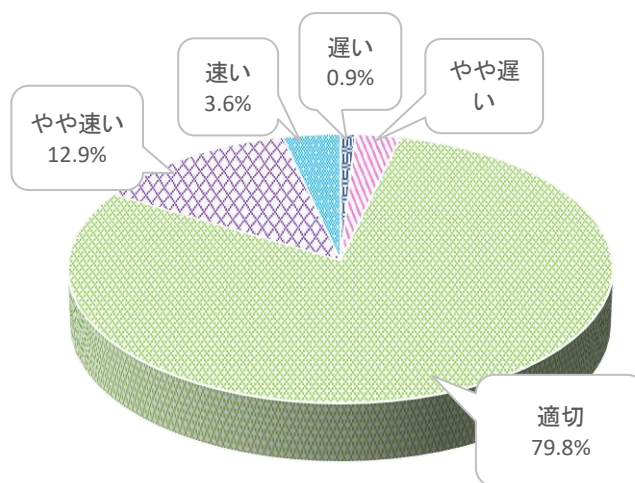
1. 授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない
	4,348	2,350	153	44	573



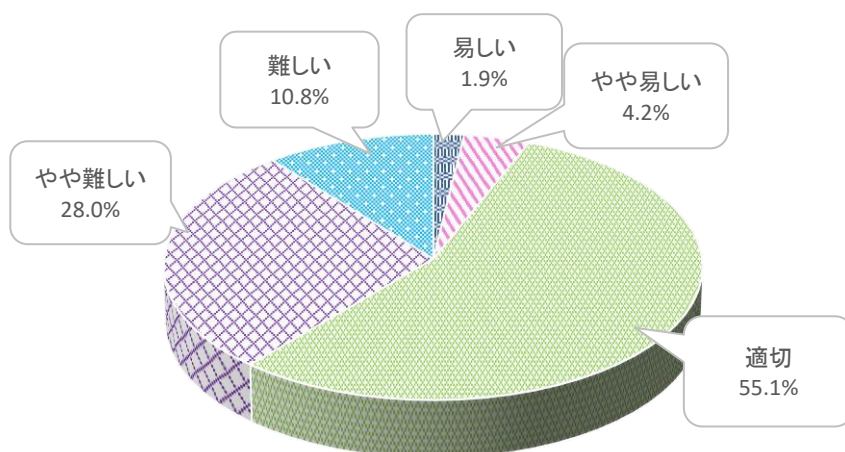
2. 授業内に配付あるいは提示される教材(教科書も含む)は授業内容に沿って適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない
	4,641	2,502	243	82



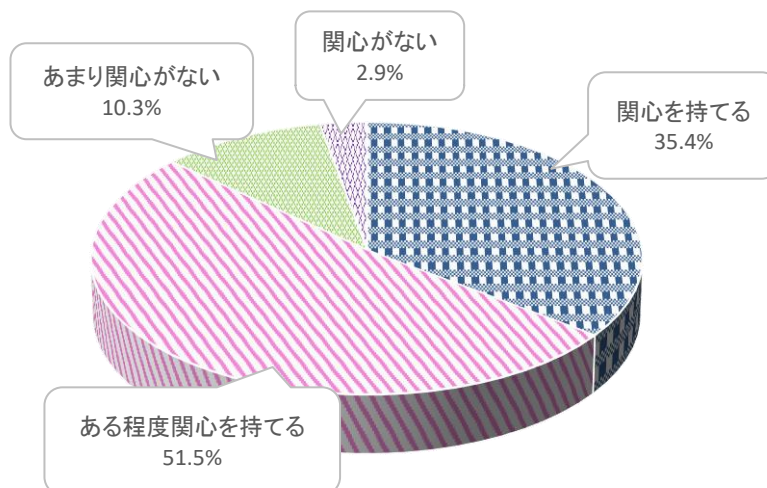
3. あなたにとってこの授業の進 度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い
	69	210	5,956	963	270



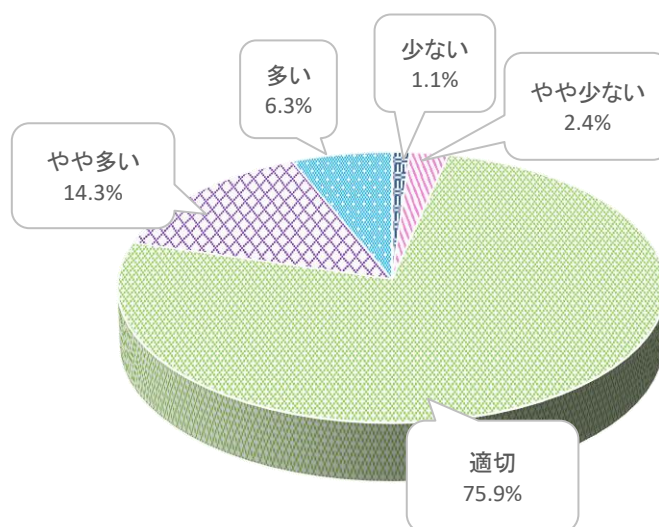
4. あなたにとってこの授業の難 易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい
	145	313	4,114	2,092	804



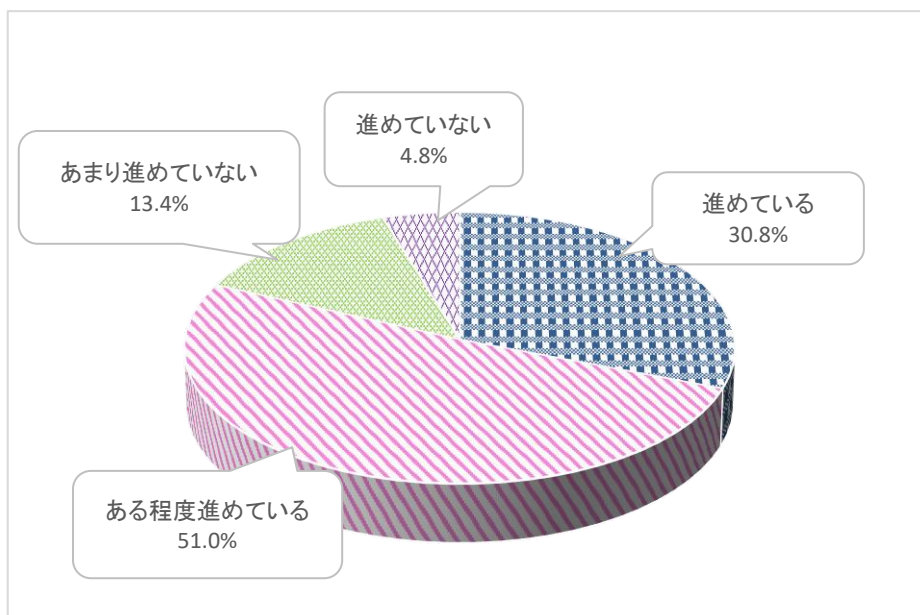
5. あなたにとって授業内容は関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない
	2,640	3,844	767	217



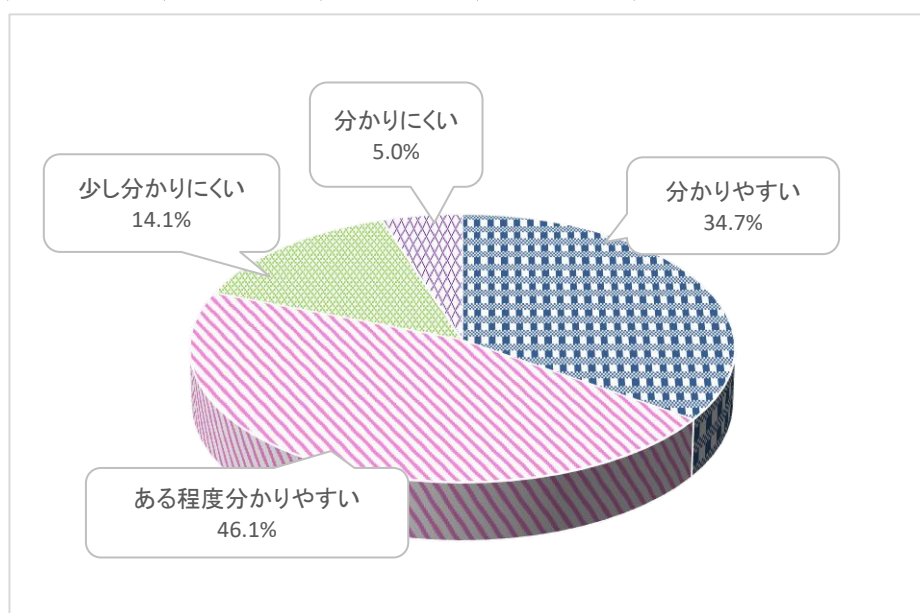
6. あなたにとってこの授業における課題量は適切だと思いますか。	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
	82	179	5,670	1,068	469



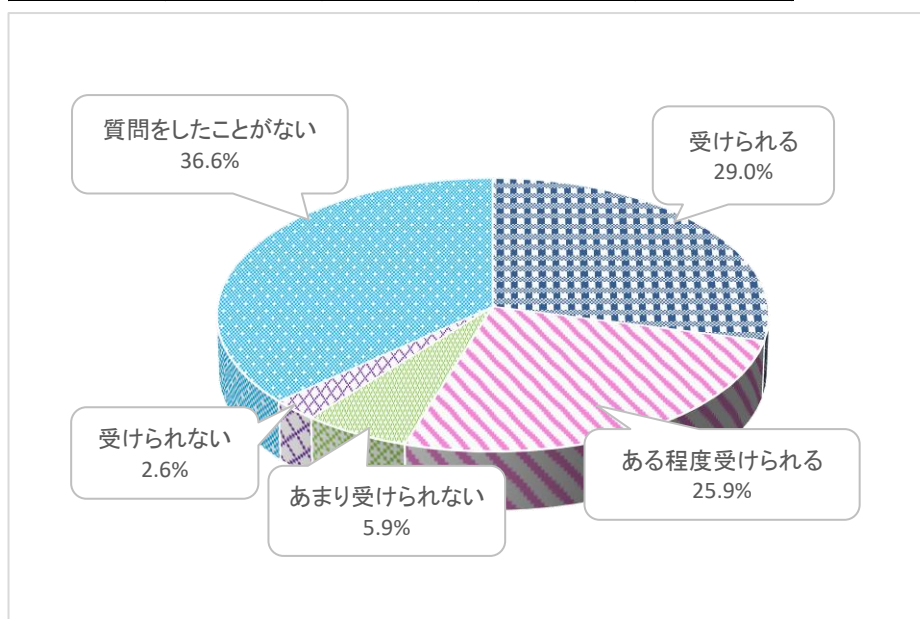
7. 授業担当者は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない
	2,298	3,811	1,001	358



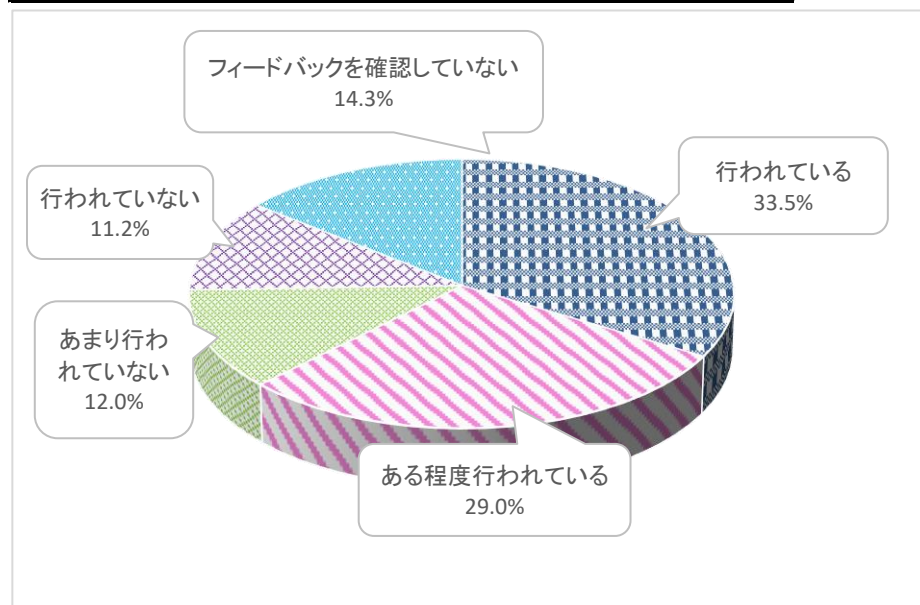
8. 授業担当者の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少し分かりにくい	分かりにくい
	2,594	3,445	1,053	376



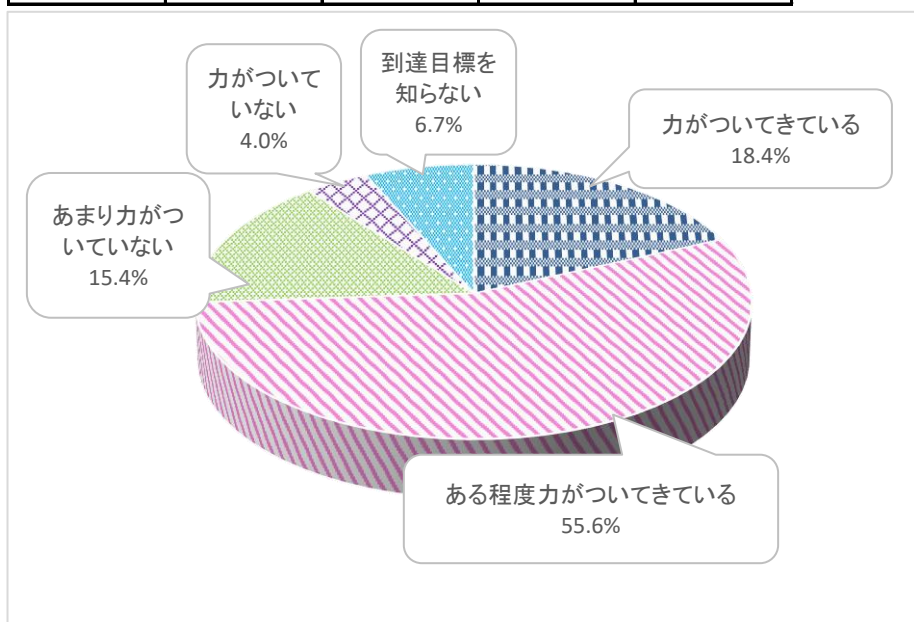
9. 授業担当者から授業外での学習支援(質問をしたら返答があるなど)を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない
	2,163	1,934	444	192	2,735



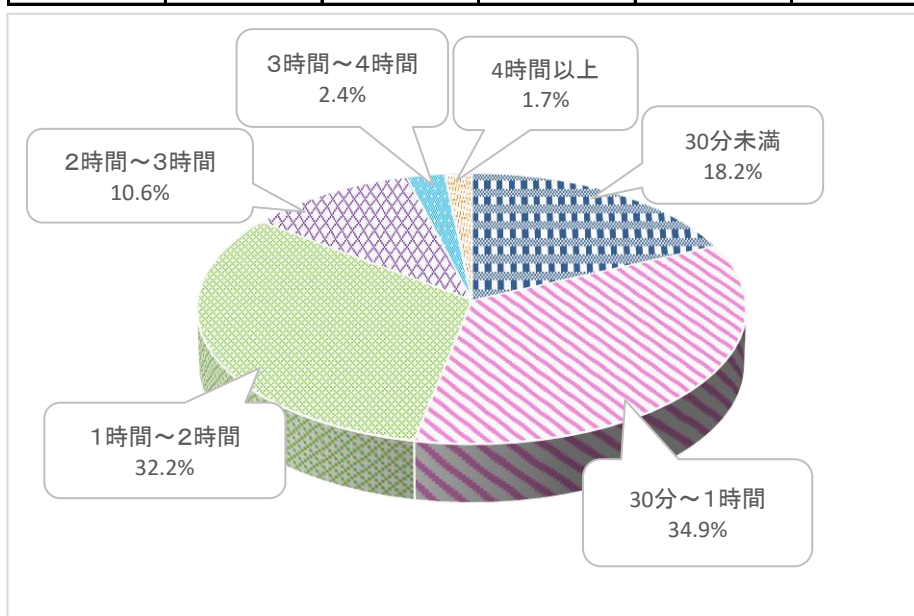
10. 授業担当者から課題へのフィードバックは行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない
	2,505	2,162	896	837	1,068



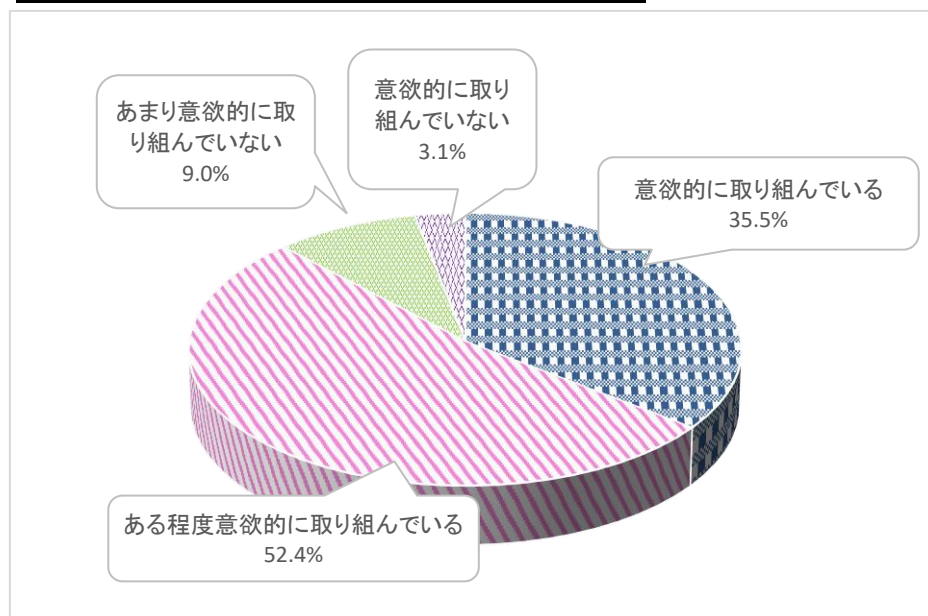
11. あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない
	1,374	4,149	1,147	296	502



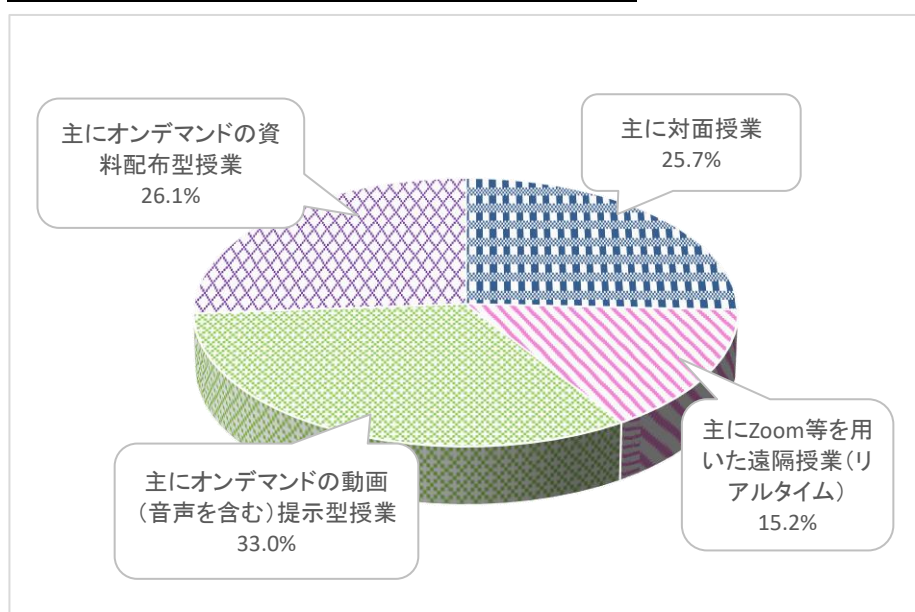
12. あなたは予習・復習、準備、課題作成も含めて、この授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか(授業時間も含める)。	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上
	1,362	2,609	2,403	791	177	126



13. あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない
	2,651	3,914	671	232



14. この授業には本来どういう授業形態が相応しいと思いますか。	主に対面授業	主にZoom等を用いた遠隔授業（リアルタイム）	主にオンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業	主にオンデマンドの資料配布型授業
	1,919	1,135	2,462	1,952



後期授業アンケート 科目開講所属別 集計結果

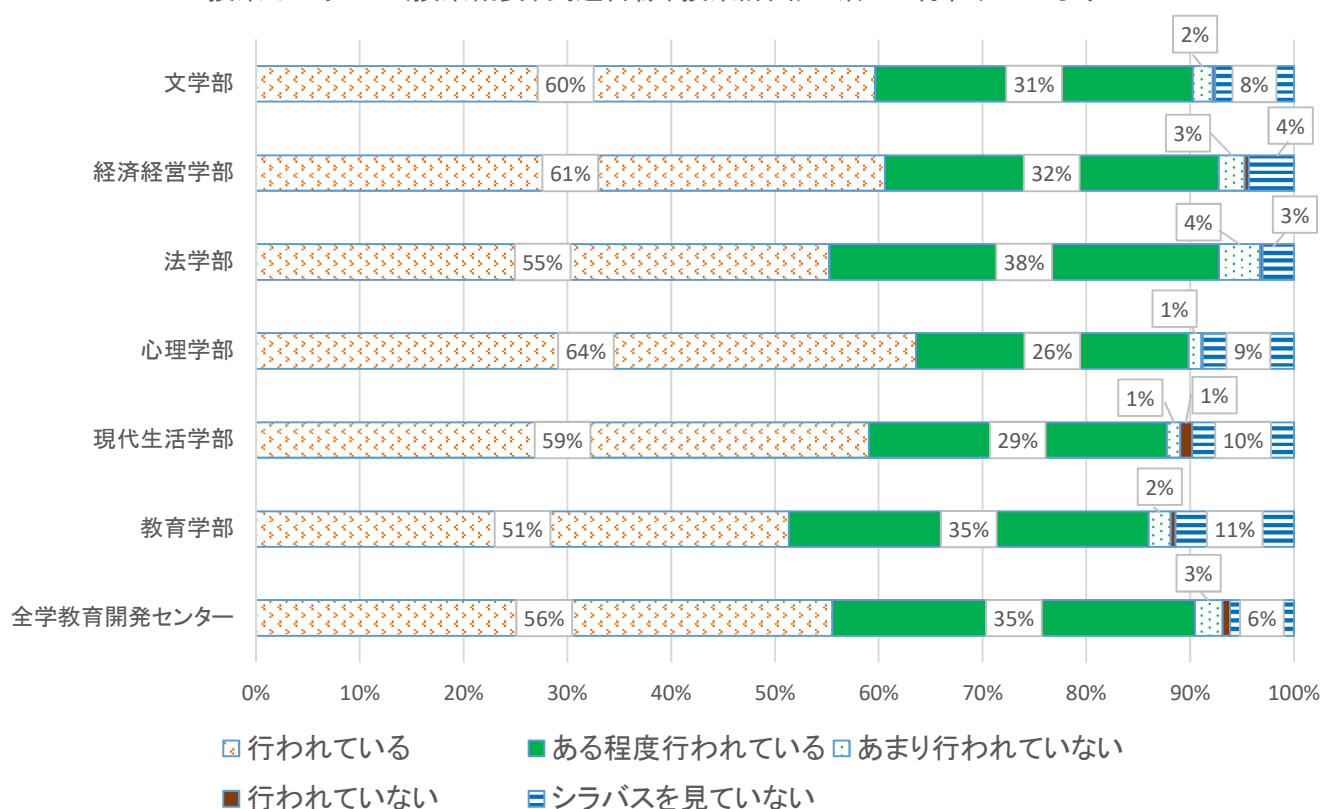
総履修者数	総回答数	回答率
16,500	7,468	45.26%

質問

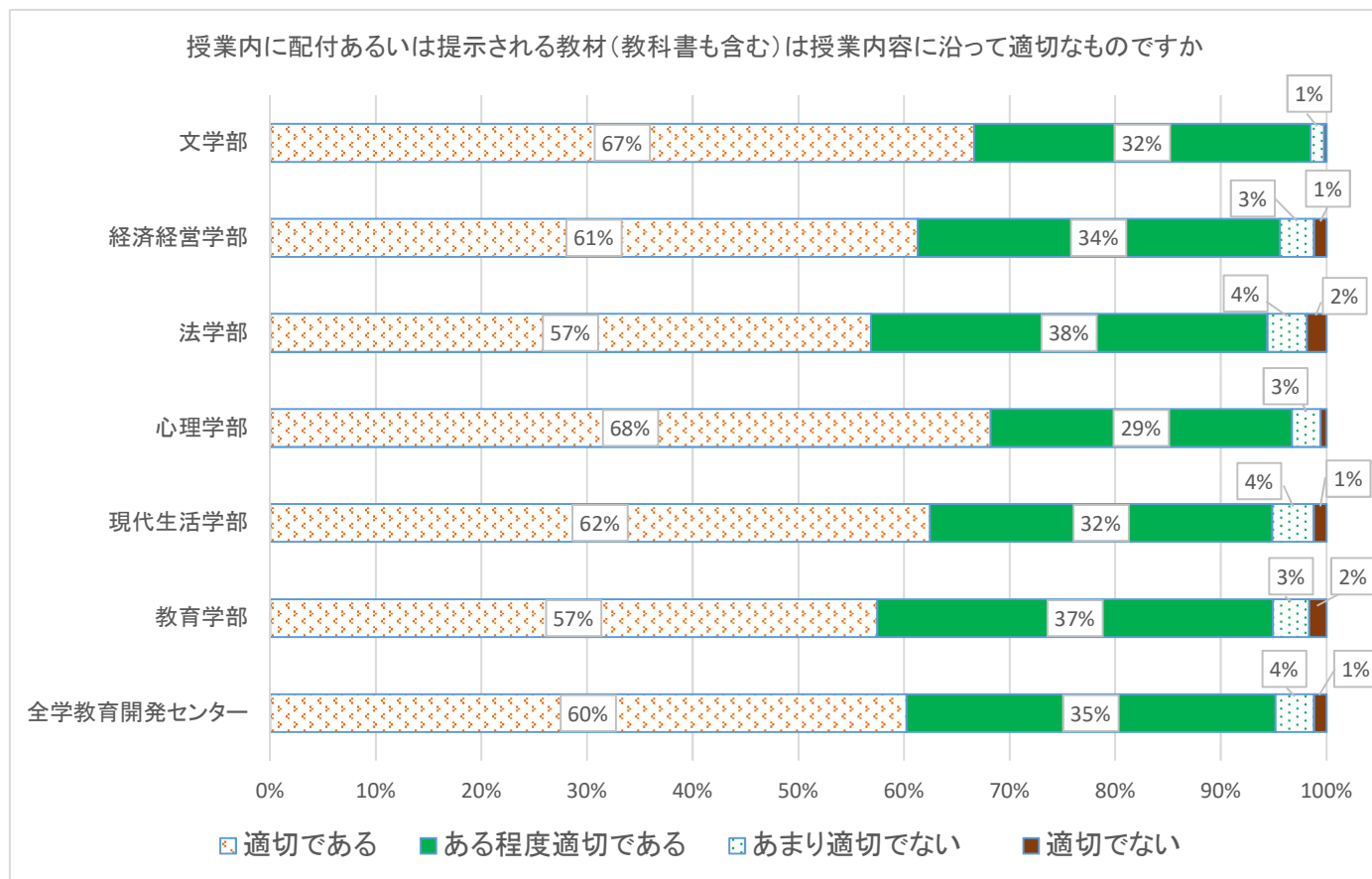
回答

1. 授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	総回答数
文学部	503	258	16	2	64	843
	60%	31%	2%	0%	8%	100%
経済経営学部	767	407	32	5	55	1,266
	61%	32%	3%	0%	4%	100%
法学部	237	161	17	1	13	429
	55%	38%	4%	0%	3%	100%
心理学部	564	233	11	1	78	887
	64%	26%	1%	0%	9%	100%
現代生活学部	1,128	548	25	22	187	1,910
	59%	29%	1%	1%	10%	100%
教育学部	437	295	18	4	97	851
	51%	35%	2%	0%	11%	100%
全学教育開発センター	712	448	34	9	79	1,282
	56%	35%	3%	1%	6%	100%

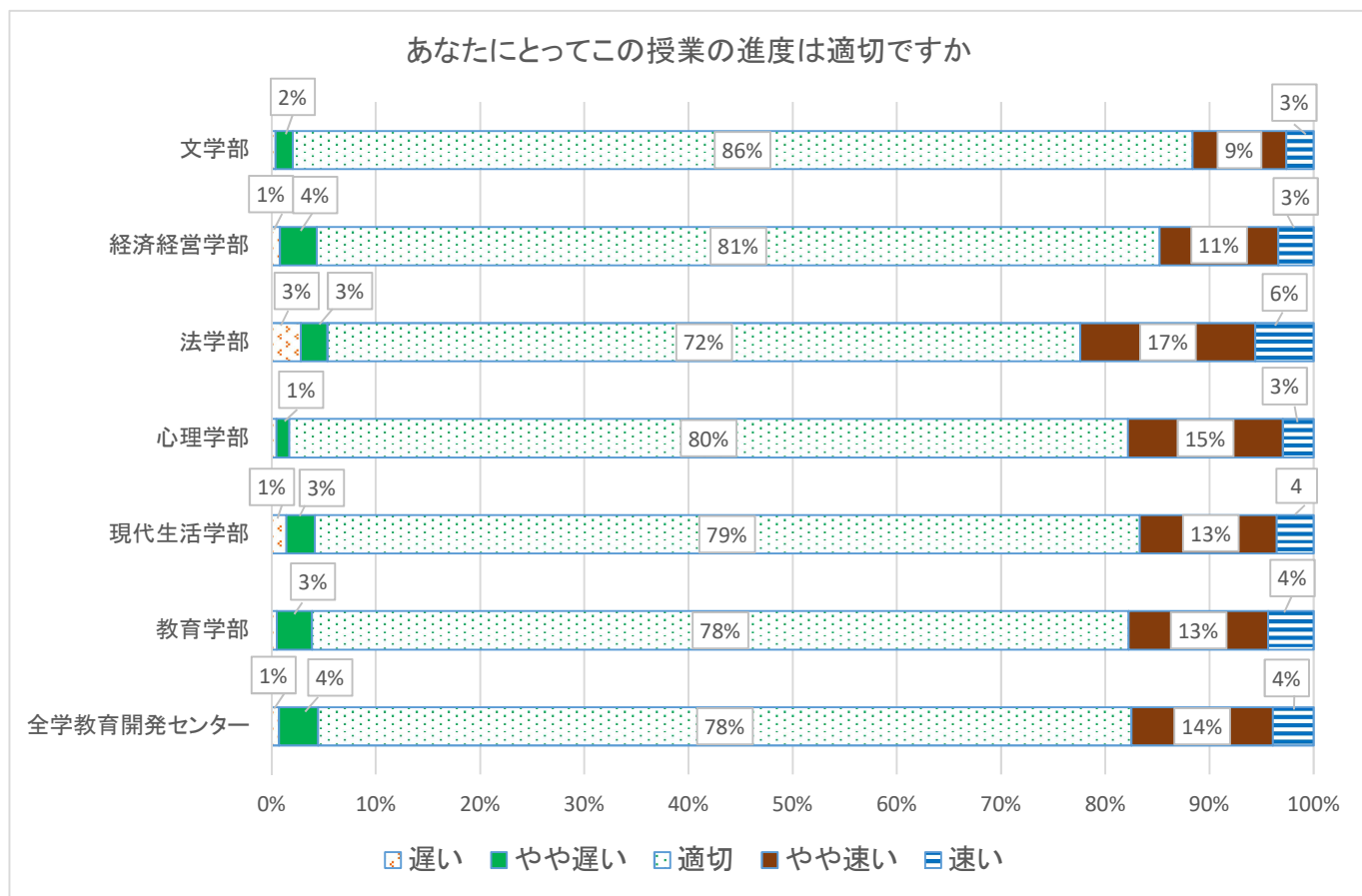
授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われていますか



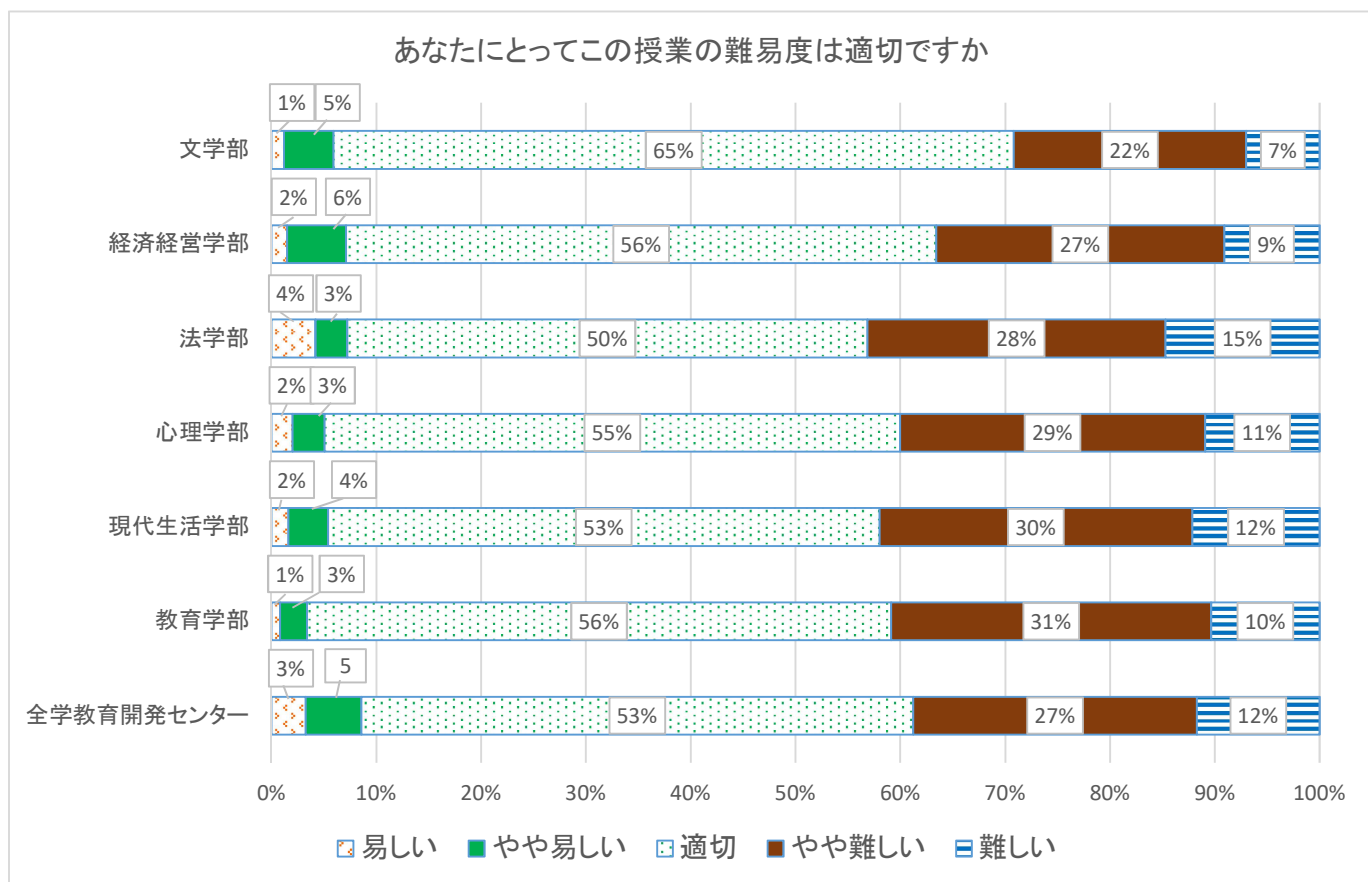
2. 授業内に配付あるいは提示される教材(教科書も含む)は授業内容に沿って適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	
文学部	562	268	11	2	843
	67%	32%	1%	0%	100%
経済経営学部	776	434	41	15	1,266
	61%	34%	3%	1%	100%
法学部	244	161	16	8	429
	57%	38%	4%	2%	100%
心理学部	605	253	24	5	887
	68%	29%	3%	1%	100%
現代生活学部	1,193	619	75	23	1,910
	62%	32%	4%	1%	100%
教育学部	489	319	29	14	851
	57%	37%	3%	2%	100%
全学教育開発センター	772	448	47	15	1,282
	60%	35%	4%	1%	100%



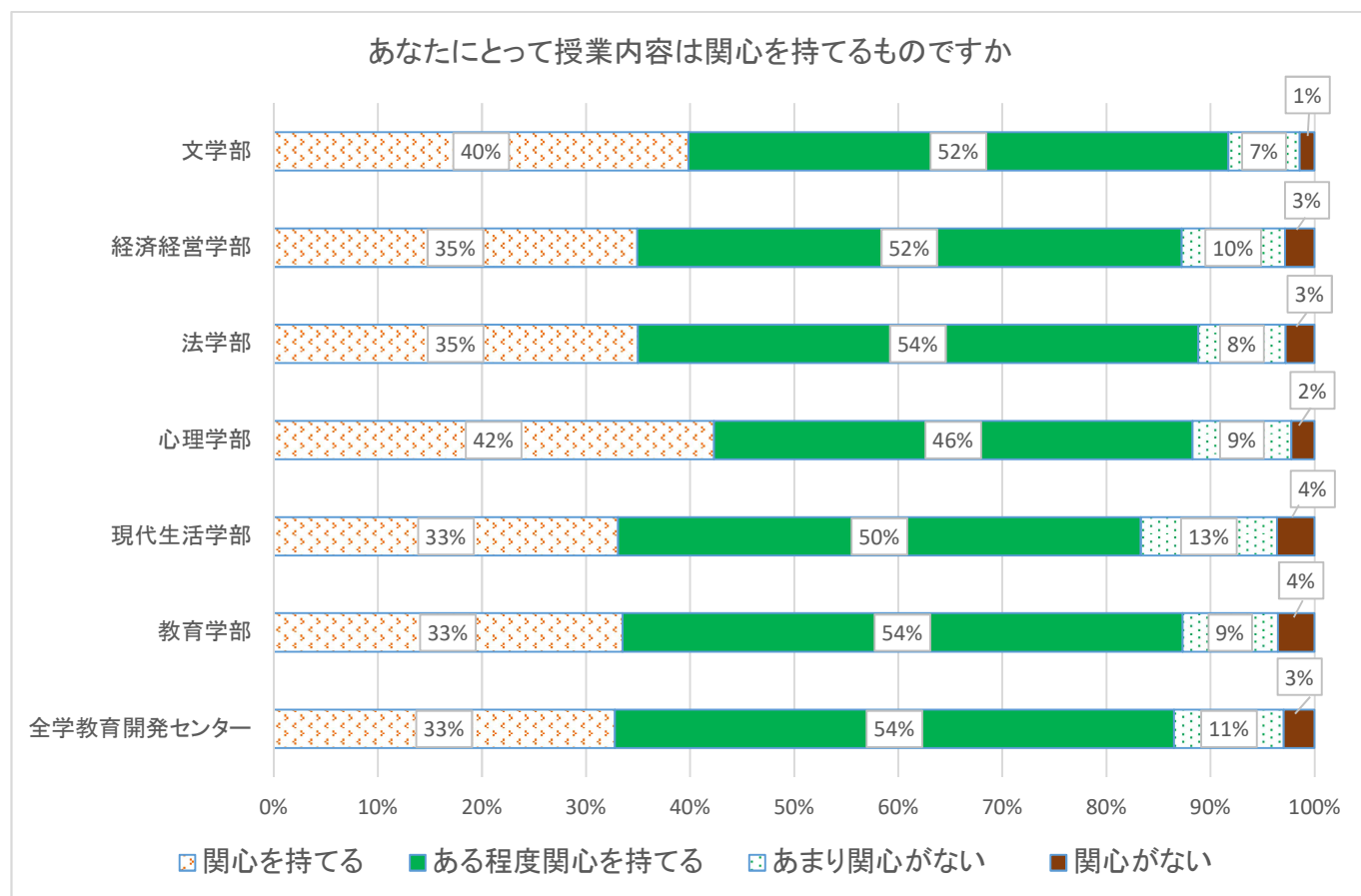
3. あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	
文学部	3	14	728	76	22	843
	0%	2%	86%	9%	3%	100%
経済経営学部	10	45	1,024	144	43	1,266
	1%	4%	81%	11%	3%	100%
法学部	12	11	310	72	24	429
	3%	3%	72%	17%	6%	100%
心理学部	4	11	714	132	26	887
	0%	1%	80%	15%	3%	100%
現代生活学部	27	52	1,512	251	68	1,910
	1%	3%	79%	13%	4%	100%
教育学部	4	29	667	114	37	851
	0%	3%	78%	13%	4%	100%
全学教育開発センター	9	48	1,001	174	50	1,282
	1%	4%	78%	14%	4%	100%



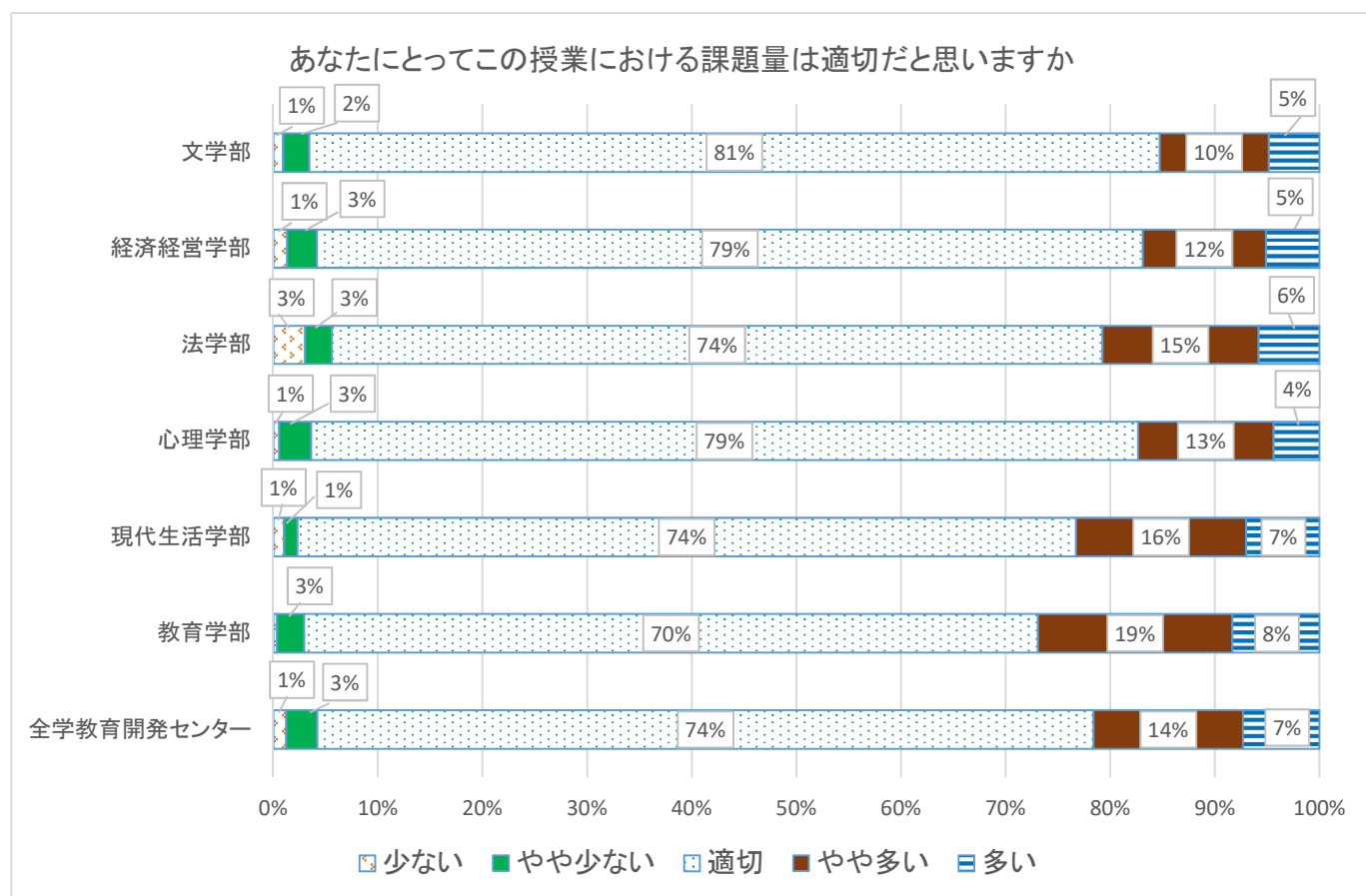
4. あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	
文学部	10	40	547	187	59	843
	1%	5%	65%	22%	7%	100%
経済経営学部	19	71	713	348	115	1,266
	2%	6%	56%	27%	9%	100%
法学部	18	13	213	122	63	429
	4%	3%	50%	28%	15%	100%
心理学部	18	27	487	258	97	887
	2%	3%	55%	29%	11%	100%
現代生活学部	31	72	1,005	570	232	1,910
	2%	4%	53%	30%	12%	100%
教育学部	7	22	474	260	88	851
	1%	3%	56%	31%	10%	100%
全学教育開発センター	42	68	675	347	150	1,282
	3%	5%	53%	27%	12%	100%



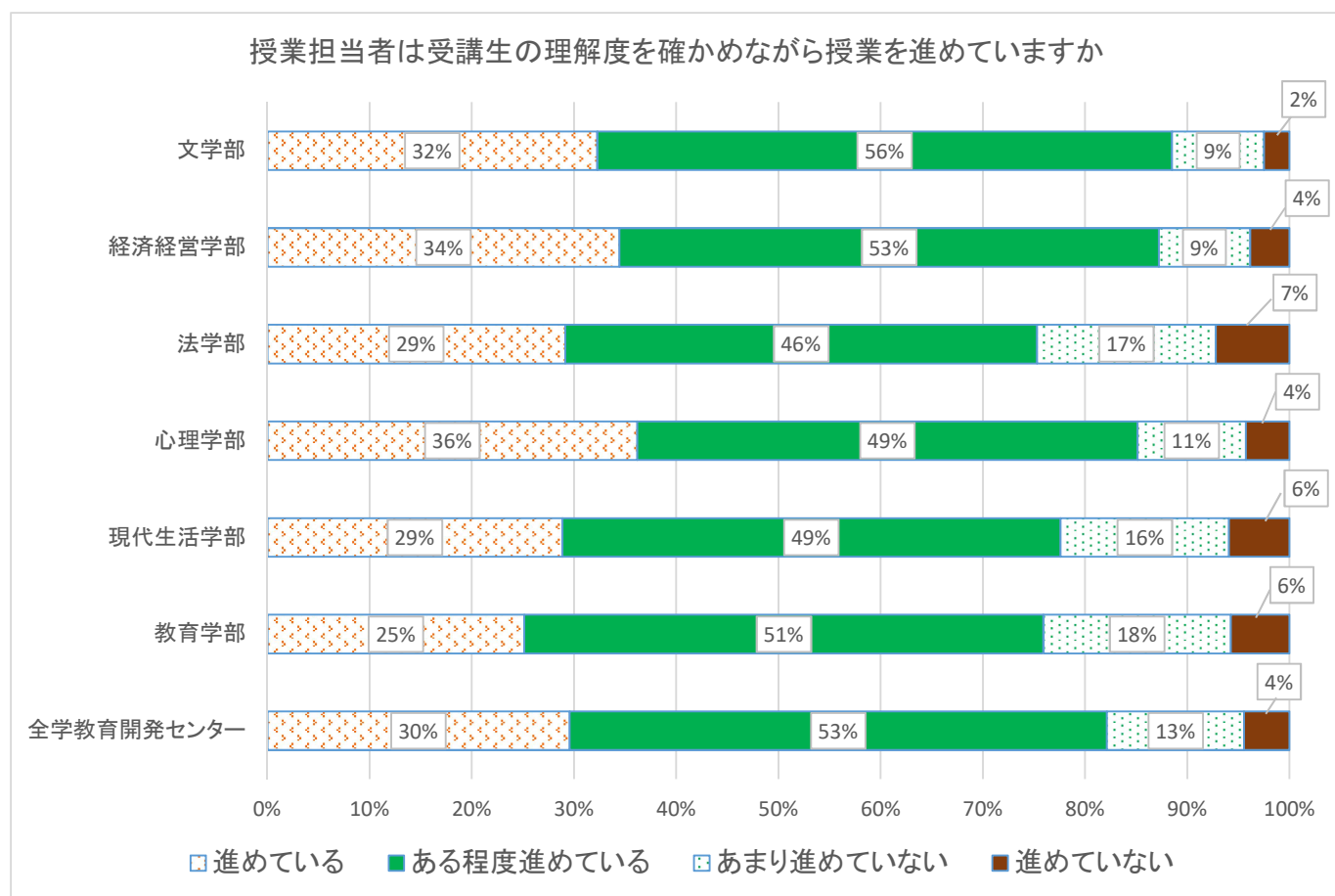
5. あなたにとって授業内容は関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	
文学部	336	437	58	12	843
	40%	52%	7%	1%	100%
経済経営学部	442	662	126	36	1,266
	35%	52%	10%	3%	100%
法学部	150	231	36	12	429
	35%	54%	8%	3%	100%
心理学部	375	408	84	20	887
	42%	46%	9%	2%	100%
現代生活学部	632	959	250	69	1,910
	33%	50%	13%	4%	100%
教育学部	285	458	78	30	851
	33%	54%	9%	4%	100%
全学教育開発センター	420	689	135	38	1,282
	33%	54%	11%	3%	100%



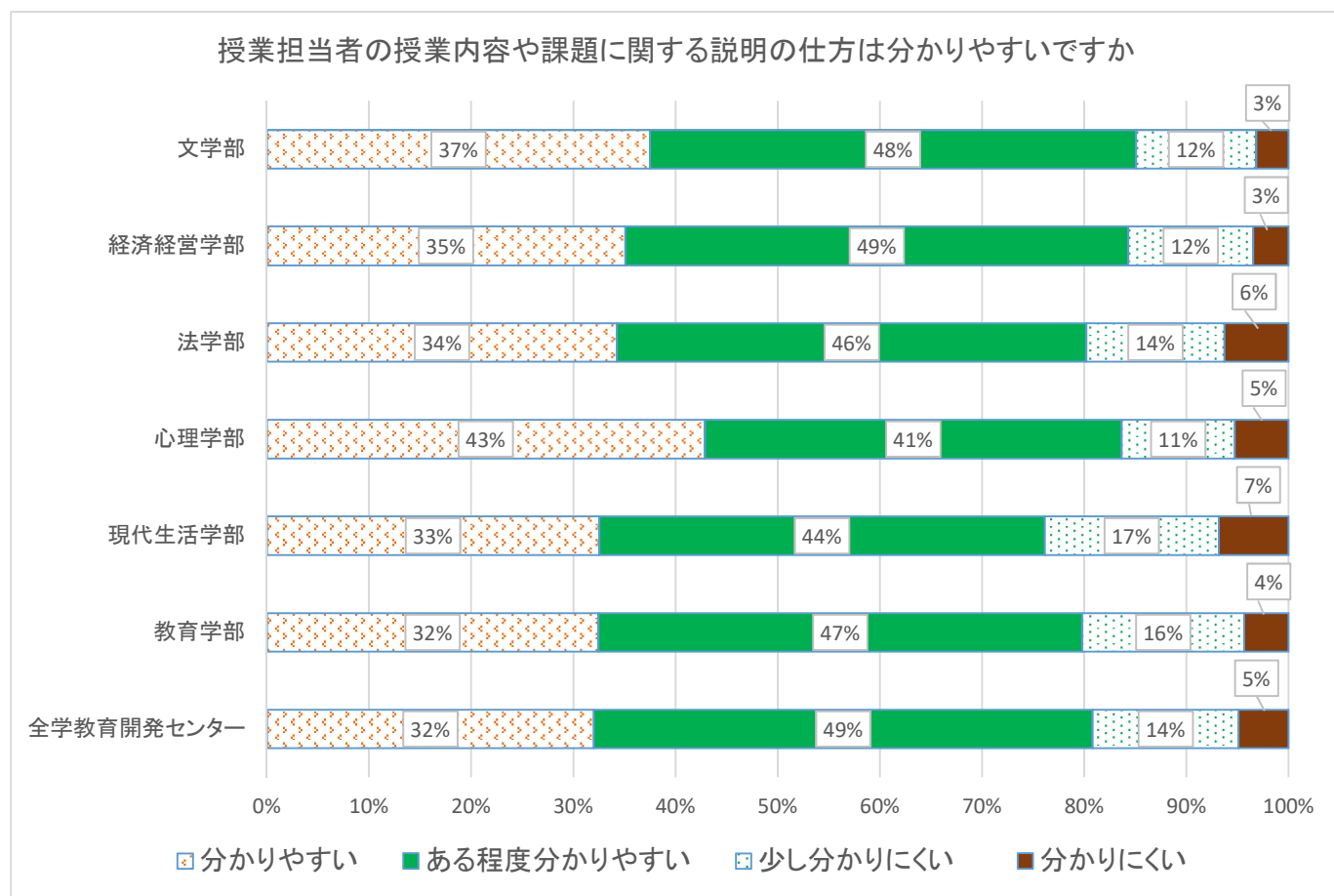
6. あなたにとってこの授業における課題量は適切だと思いますか。	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い	
文学部	8	21	685	88	41	843
	1%	2%	81%	10%	5%	100%
経済経営学部	17	36	999	149	65	1,266
	1%	3%	79%	12%	5%	100%
法学部	13	11	316	64	25	429
	3%	3%	74%	15%	6%	100%
心理学部	5	27	701	115	39	887
	1%	3%	79%	13%	4%	100%
現代生活学部	20	24	1,421	311	134	1,910
	1%	1%	74%	16%	7%	100%
教育学部	3	22	597	158	71	851
	0%	3%	70%	19%	8%	100%
全学教育開発センター	16	38	951	183	94	1,282
	1%	3%	74%	14%	7%	100%



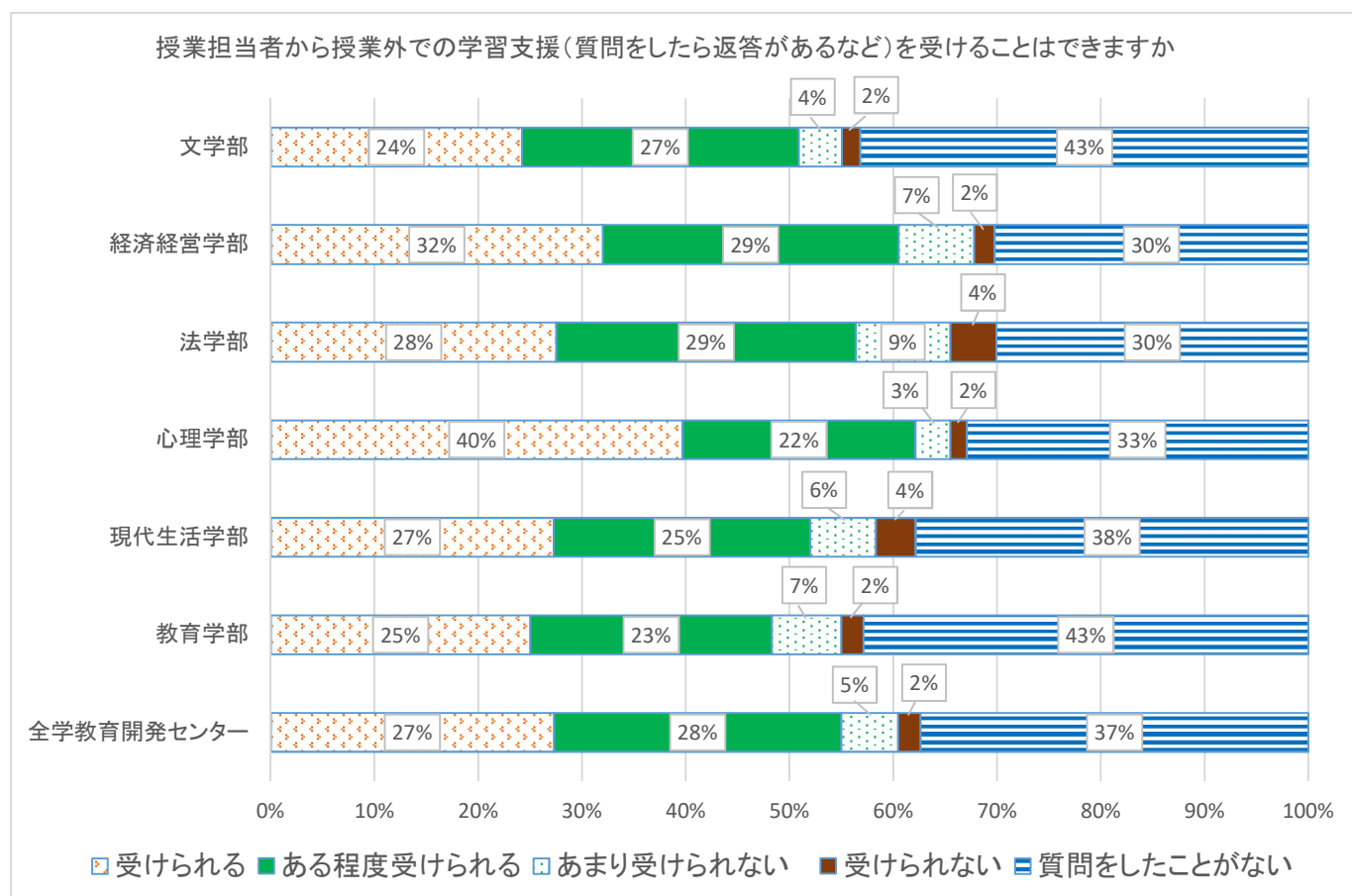
7. 授業担当者は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	
文学部	272	474	76	21	843
	32%	56%	9%	2%	100%
経済経営学部	436	668	113	49	1,266
	34%	53%	9%	4%	100%
法学部	125	198	75	31	429
	29%	46%	17%	7%	100%
心理学部	321	434	94	38	887
	36%	49%	11%	4%	100%
現代生活学部	551	931	315	113	1,910
	29%	49%	16%	6%	100%
教育学部	214	432	156	49	851
	25%	51%	18%	6%	100%
全学教育開発センター	379	674	172	57	1,282
	30%	53%	13%	4%	100%



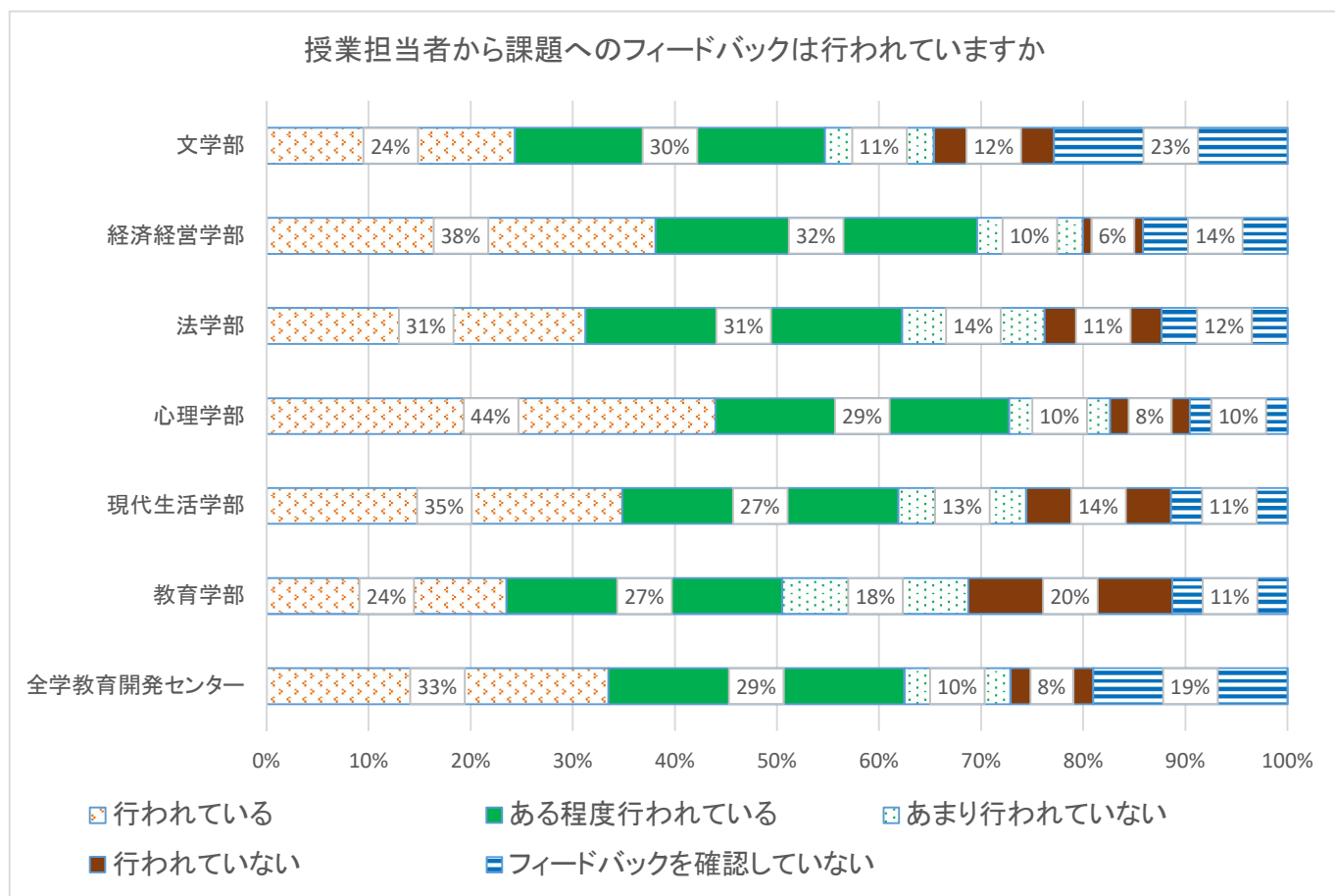
8. 授業担当者の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少し分かりにくい	分かりにくい	
文学部	316	401	99	27	843
	37%	48%	12%	3%	100%
経済経営学部	444	623	155	44	1,266
	35%	49%	12%	3%	100%
法学部	147	197	58	27	429
	34%	46%	14%	6%	100%
心理学部	380	362	98	47	887
	43%	41%	11%	5%	100%
現代生活学部	621	833	325	131	1,910
	33%	44%	17%	7%	100%
教育学部	276	403	135	37	851
	32%	47%	16%	4%	100%
全学教育開発センター	410	626	183	63	1,282
	32%	49%	14%	5%	100%



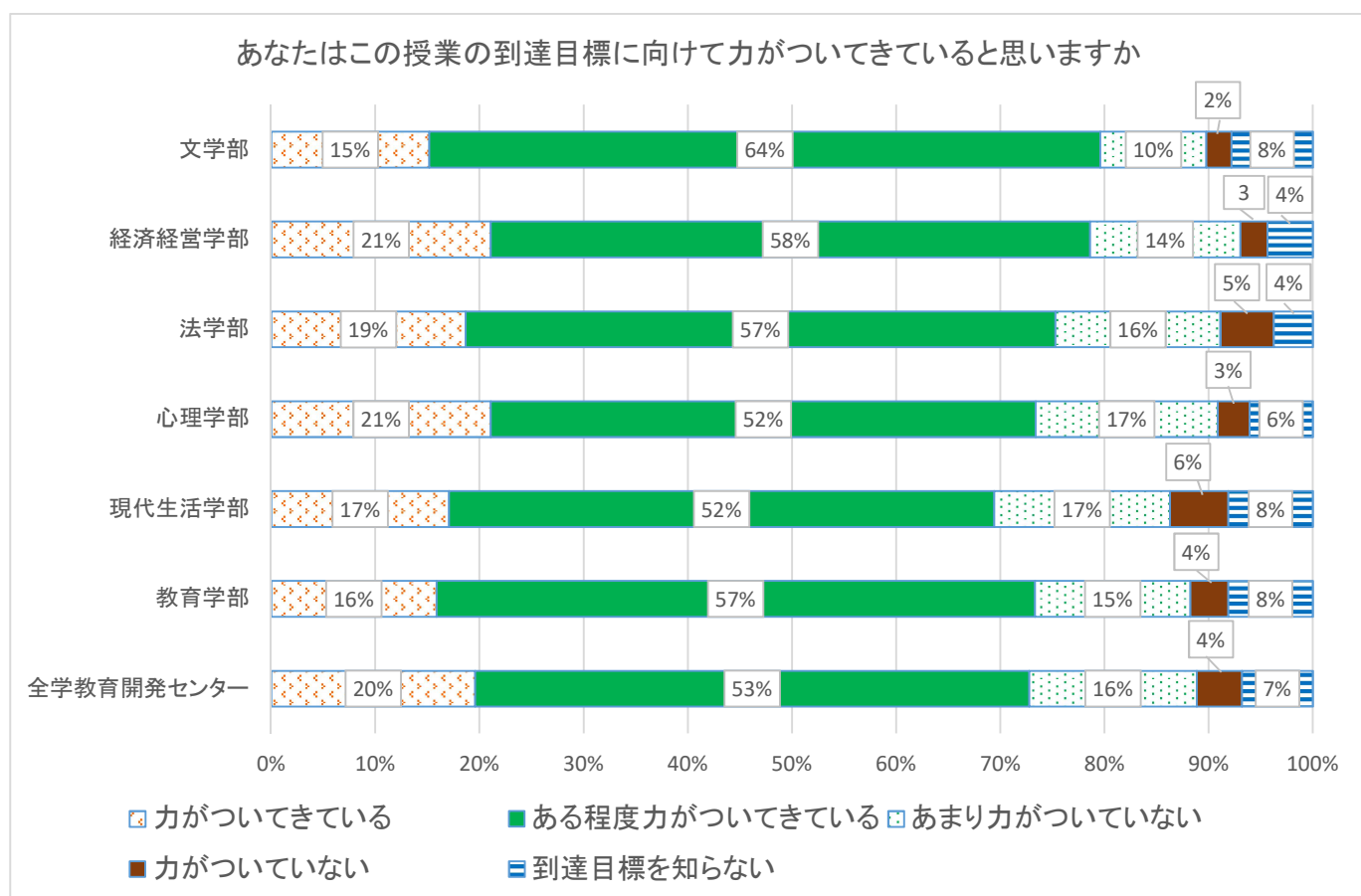
9. 授業担当者から授業外での学習支援(質問をしたら返答があるなど)を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	
文学部	204	225	35	15	364	843
	24%	27%	4%	2%	43%	100%
経済経営学部	405	361	92	25	383	1,266
	32%	29%	7%	2%	30%	100%
法学部	118	124	39	19	129	429
	28%	29%	9%	4%	30%	100%
心理学部	352	199	30	14	292	887
	40%	22%	3%	2%	33%	100%
現代生活学部	521	472	121	73	723	1,910
	27%	25%	6%	4%	38%	100%
教育学部	213	198	57	18	365	851
	25%	23%	7%	2%	43%	100%
全学教育開発センター	350	355	70	28	479	1,282
	27%	28%	5%	2%	37%	100%



10. 授業担当者から課題へのフィードバックは行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	
文学部	205	256	90	99	193	843
	24%	30%	11%	12%	23%	100%
経済経営学部	482	399	131	75	179	1,266
	38%	32%	10%	6%	14%	100%
法学部	134	133	60	49	53	429
	31%	31%	14%	11%	12%	100%
心理学部	390	255	88	69	85	887
	44%	29%	10%	8%	10%	100%
現代生活学部	665	517	239	271	218	1,910
	35%	27%	13%	14%	11%	100%
教育学部	200	230	155	170	96	851
	24%	27%	18%	20%	11%	100%
全学教育開発センター	429	372	133	104	244	1,282
	33%	29%	10%	8%	19%	100%

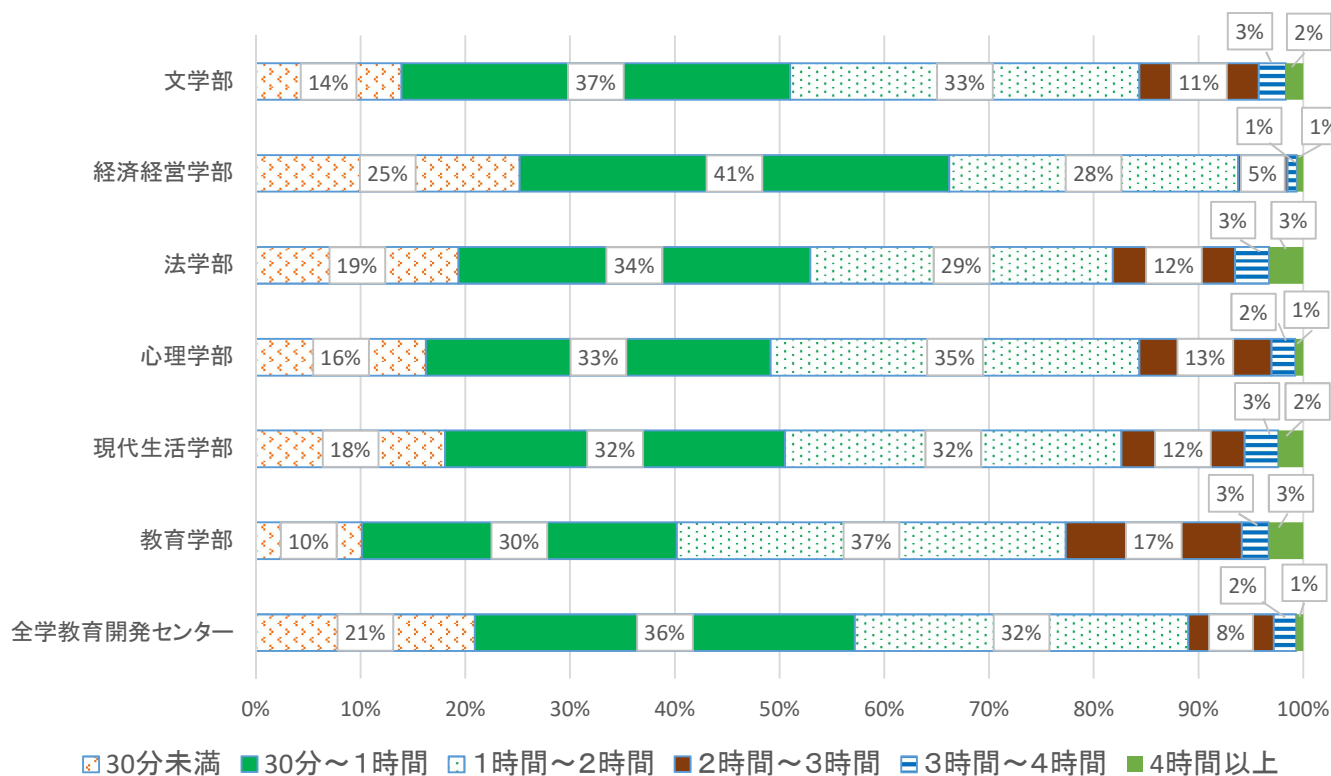


11. あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	
文学部	128	543	86	20	66	843
	15%	64%	10%	2%	8%	100%
経済経営学部	267	728	183	33	55	1,266
	21%	58%	14%	3%	4%	100%
法学部	80	243	68	22	16	429
	19%	57%	16%	5%	4%	100%
心理学部	187	464	155	27	54	887
	21%	52%	17%	3%	6%	100%
現代生活学部	326	1,000	322	107	155	1,910
	17%	52%	17%	6%	8%	100%
教育学部	135	489	127	31	69	851
	16%	57%	15%	4%	8%	100%
全学教育開発センター	251	682	206	56	87	1,282
	20%	53%	16%	4%	7%	100%

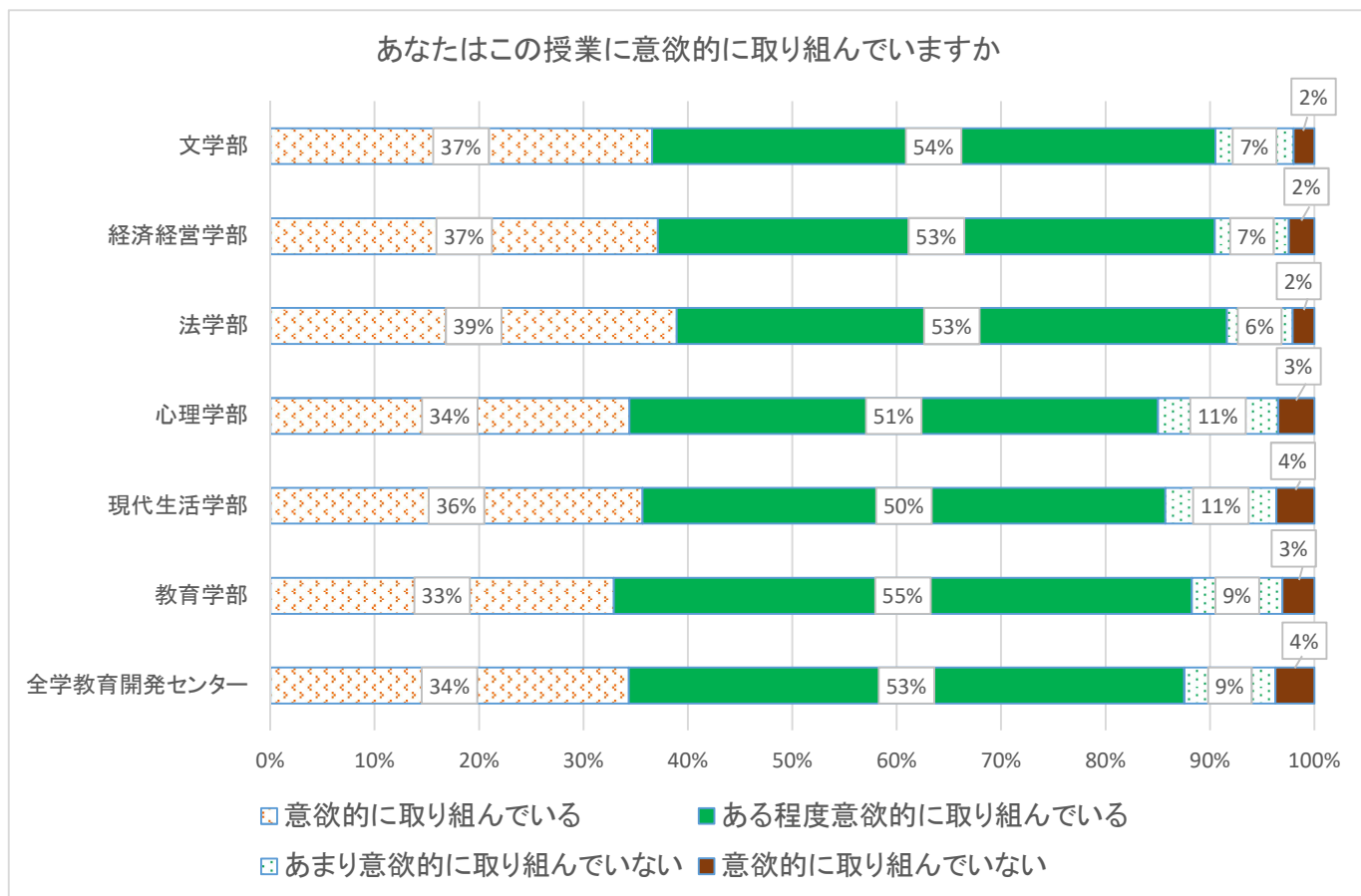


12. あなたは予習・復習、準備、課題作成も含めて、この授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか(授業時間も含める)。	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上	
文学部	117	313	281	96	22	14	843
	14%	37%	33%	11%	3%	2%	100%
経済経営学部	319	519	349	60	11	8	1,266
	25%	41%	28%	5%	1%	1%	100%
法学部	83	144	124	50	14	14	429
	19%	34%	29%	12%	3%	3%	100%
心理学部	144	292	312	112	20	7	887
	16%	33%	35%	13%	2%	1%	100%
現代生活学部	345	620	613	225	61	46	1,910
	18%	32%	32%	12%	3%	2%	100%
教育学部	86	256	316	143	22	28	851
	10%	30%	37%	17%	3%	3%	100%
全学教育開発センター	268	465	408	105	27	9	1,282
	21%	36%	32%	8%	2%	1%	100%

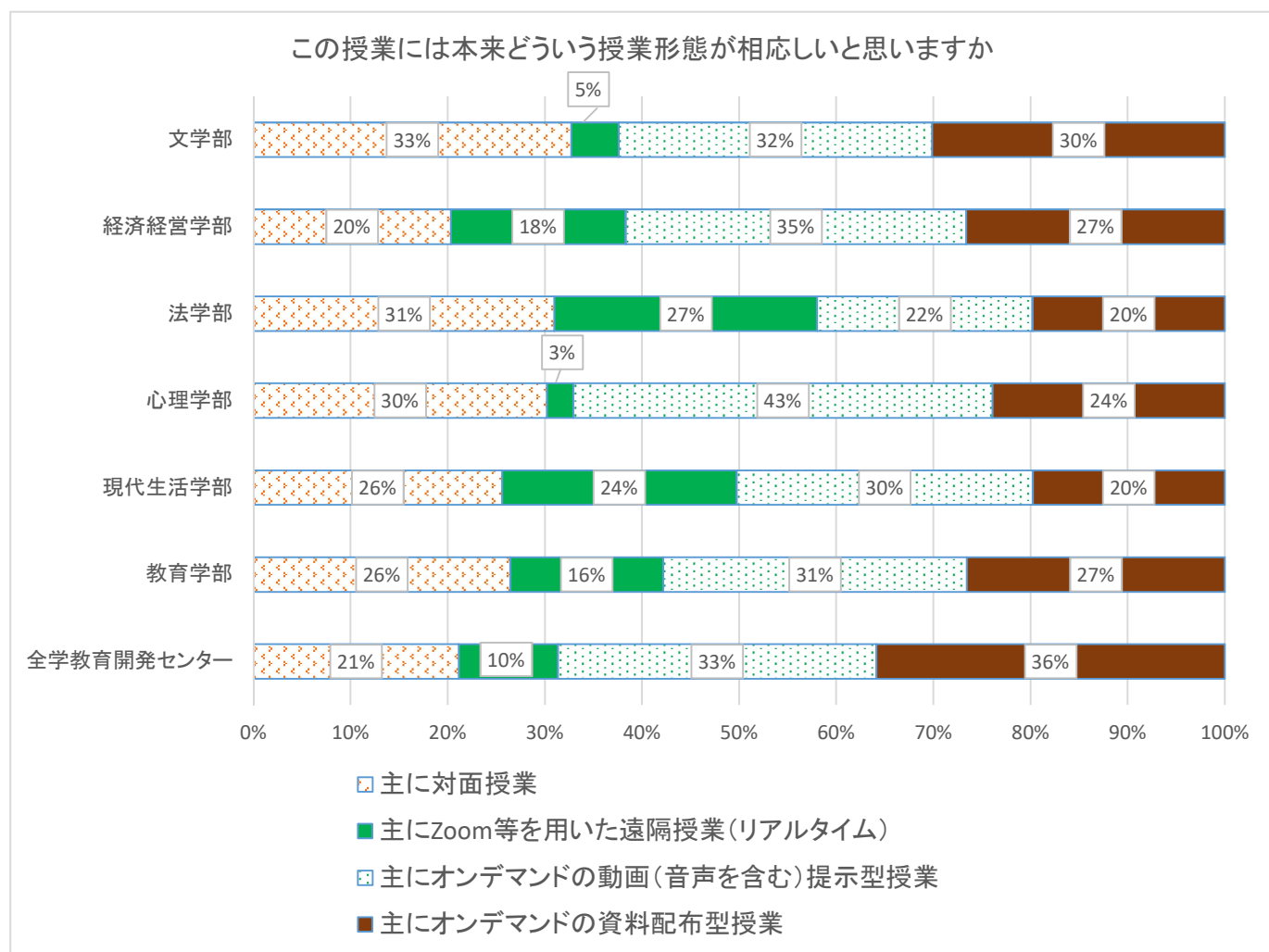
あなたは予習・復習、準備、課題作成も含めて、この授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか(授業時間も含める)



13. あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	
文学部	308	455	63	17	843
	37%	54%	7%	2%	100%
経済経営学部	470	675	90	31	1,266
	37%	53%	7%	2%	100%
法学部	167	226	27	9	429
	39%	53%	6%	2%	100%
心理学部	305	449	102	31	887
	34%	51%	11%	3%	100%
現代生活学部	681	956	203	70	1,910
	36%	50%	11%	4%	100%
教育学部	280	471	74	26	851
	33%	55%	9%	3%	100%
全学教育開発センター	440	682	112	48	1,282
	34%	53%	9%	4%	100%



14. この授業には本来どういう授業形態が相応しいと思いますか。	主に対面授業	主にZoom等を用いた遠隔授業（リアルタイム）	主にオンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業	主にオンデマンドの資料配布型授業	
文学部	276 33%	41 5%	272 32%	254 30%	843 100%
経済経営学部	257 20%	228 18%	444 35%	337 27%	1,266 100%
法学部	133 31%	116 27%	95 22%	85 20%	429 100%
心理学部	268 30%	24 3%	383 43%	212 24%	887 100%
現代生活学部	489 26%	461 24%	582 30%	378 20%	1,910 100%
教育学部	225 26%	134 16%	266 31%	226 27%	851 100%
全学教育開発センター	271 21%	131 10%	420 33%	460 36%	1,282 100%



2. 授業改善アンケートの結果のフィードバックについて

担当教員へのフィードバック

アンケート結果は、TALES 上で自動集計されたものを各自確認いただくこととし、以下の依頼をした。なお、意見聴取シートの提出率は、63%（専任教員 99%）であった。

- 集計結果および学生からの意見に対して、できるだけ講義中に説明等を行うとともに、今後の授業改善の一助とすること。
- 意見聴取シート（「結果の予想と実際の比較」「結果を踏まえての授業改善方法」「先生方が授業で工夫されている点」「授業運営で困っている点」）を提出すること。
⇒「結果を踏まえての授業改善方法」は、原文のまま学内サーバーにて教職員及び学生に公開する。
⇒「先生方が授業で工夫されている点」については、全学教育開発センターで検討の上、「ティーチングティップス集【別紙 1】」として学内サーバーにて全教員に公開する。
- アンケート結果をティーチング・ポートフォリオに掲載すること。

学長、副学長、各学部長、全学教育開発センター長へのフィードバック

①アンケート対象科目全体の集計結果、②アンケート対象科目の開講所属別集計結果、③専任教員担当科目についての教員所属別集計結果を、学長、副学長、各学部長および全学教育開発センター長に通知した。（①・②については、専任教職員が参照できる学内サーバーに収納した。）また、各学部長および全学教育開発センター長に対しては、本アンケートの実効性を高めるために以下の依頼をした。

- 本アンケートの結果を基に、学部の専任教員（任期制を含む）による意見交換会（学部内 F D）を行い、取りまとめた結果を全学教育開発センターに報告すること。

学生へのフィードバック

担当教員が提出した意見聴取シートのうち、「結果を踏まえての授業改善方法」の一覧を、学生が参照できる学内サーバーに収納した。

全学教育開発センター運営委員会での報告・検討

全学教育開発センター運営委員会にて以下の報告・検討をおこなった。

- 遠隔授業実施下におけるアンケート実施についての検討
- アンケート質問項目、意見聴取シート記載項目変更の報告
- アンケート実施状況、意見聴取シート提出状況の報告
- 「ティーチングティップス集【別紙 1】」の検討

2020年度 後期
帝塚山大学
ティーチング・ティップス集



（１） 2020年度後期の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シートの「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になると思われるものをピックアップしました。

（２） 同類の工夫が複数の項目に入っている場合がありますが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしております。

（３） なお、本ティーチング・ティップス集は、2020年度後期のみを対象としております。よって、コロナ禍におけるオンラインおよびハイブリット授業の例がほとんどです。通常の対面授業における工夫については、ひきつづき、2019年度までのティップス集をご覧ください。

1. 授業で心がけていること

- ・最新の研究を紹介する。
- ・可能な限り学生的心声を聞いて講義に反映させる。
- ・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。
- ・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。
- ・クラスメイトがどのような考えを持ち課題を進めているのか？ということクラス全体で共有（可視化）しながら、時にそれらをピアで（仲間同士で）評価し、課題（授業）全体を進めていくよう工夫する。すなわち、縦（教員）だけでなく、横（クラスメイト）からの刺激を受けられるように授業構成する。
- ・思考ツールなどを活用し可視化することで主体的で深い学びとなるよう工夫する。
- ・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。こまめにテストをしたり、意見を言ってもらうようにする。
- ・何のための実験操作か？その操作でどんなことが起こるのか？などといったことを、限られた時間の中ではあるが、学生一人ひとりがイメージできるような授業を実践する。
- ・全員が公平に学習を進められる環境を提供する。

2. 講義方法

- ・単なる説明をするだけではモチベーションが続かない可能性があるので、基本的にはクイズ形式にして解説を詳しくするようにしている。
- ・数学を用いた式の展開などでは、スライドショーは用いず、ペンパッドを用いたホワイトボードで講義を行う。これは、数学を用いた講義は対面ニーズが高い印象があるため、極力、対面での黒板を用いた講義に似せている。
- ・予習、復習、学習効果などの効率性を考え、各項目についての取り組みを行っている。例えば、予習－録画配信、復習－毎回小テスト、学習効果－マインドマップの作成などを行っている。
- ・説明時は、PCのマイクやスピーカーを通しての説明となることを念頭におき、滑舌よく話すよう努力している。教員の顔の表情を乏しく見せないために、画面の学生に向かってなるべく親しみを込めて笑いかけるよう気をつけている。
- ・毎週、配信動画の前半は、前回の授業の振り返りを行う。
- ・TALESに掲載した動画や資料と、書画カメラとの切り替えによる範書及び資料提示を併用する。
- ・遠隔オンデマンド型とはいえ、なるべくライブ感を出すように授業冒頭では時事的な問題や話題のニュースに言及し、自分なりに思うところを率直に話すようにしている。また、淡々と説明するのではなく、笑ってみせたり、画面越しに呼びかけたりして、学生が視聴していても退屈しないようにふるまうことを心がけている。

3. 教材作成

- ・動画資料とテキスト資料の両方を用意する。
- ・講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
- ・オンデマンド教材はできるだけわかりやすく、かつ、過度の負担にならない質を考え、作成する。
- ・受講生がビジュアル的にも獲得できるように画像ファイルを毎回配付する。
- ・国が運営しているデジタルミュージアムや公的なYouTube番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。
- ・1回分の授業を4～5章程度に分け、各章毎に動画教材を作成する。
- ・パワーポイントの文字を大きめにし、図の解説を記載する。
- ・文章をできるだけ、口語体で記述する。
- ・1回の授業で作成する動画の長さは、長過ぎても学生の学習意欲に影響するし、短過ぎても情報量が落ちてしまう。情報の取舍選択は行っている。
- ・WEB上で直接聞き取り・発音練習ができる教材を作成して使用している。
- ・学生に提示する資料は、穴埋め式にしている。動画を視聴して、そのポイントを学生自身が記入することができる。

4. 授業時間等の配分

- ・授業時間を、講義資料（パワーポイント動画）を見る時間、参考資料を見る時間、課題を行なう時間に三等分し90分で収まるようにする。
- ・講義資料を読んで、小論文をまとめる時間が1－2時間程度となる分量に調整する。
- ・90分を教科書の予習・リアルタイム講義・小テストによる確認（無制限受験可）の三分割で行っている。
- ・遠隔の場合、休憩をはさむ、録画動画はコンパクト（ポイントを絞った解説）にする、途中段階での得点状況（成績状況）を開示するなど、受講生が息切れしないような工夫を取り入れている。
- ・20分以上動画を閲覧すると集中力がなくなることが多いため、毎回、一部の例題を動画で説明する。
- ・学生個々のオンライン環境に差があることを考慮し、出席登録は当日の23：59まで、課題提出は原則1週間後の23：59までとして、未提出者が多い場合は次の回にTALES上でリマインドするようにしている。
- ・遠隔授業なので、受講生が課題を溜めてしまわないように、授業の前半に遠隔リアルタイム授業で説明を行うなど、受講生ができるだけ本来の授業時間内に課題に取り組んで提出する形にしている。

5. 学生参加を促す

- ・Zoomの投票機能やGoogle formによるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
- ・TALESでは掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、教員と学生との二者間ではなく多者間での知識を共有する。
- ・ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（1. おもしろかったこと、2. もっと知りたいこと、3. その他応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
- ・ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
- ・時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。Zoom授業では、画面共有を用いて一人一人に簡単な発表をしてもらう。

6. 課題の出し方とフィードバック

【課題の出し方】

- ・問題演習の時間制限を設けてTALES上に提出させ、解答をアップして、Zoomで解説・質疑応答等を行うなど、対面授業で行っているのと同じような形式を遠隔でも取り入れる。
- ・課題の種類を2つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけではなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。

【フィードバック】

- ・前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特に優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
- ・小論文に丁寧にコメントを加えて毎回返却する。
- ・小課題へのフィードバックはなるべく早く行う。
- ・完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上でTALESにアップロードする。
- ・発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
- ・学生が提出した課題をTALESのループバック機能を用いて評価を行い、それを学生にフィードバックする。

7. 復習と小テスト

【復習】

- ・前回の復習分をいくつかのパートに分けて動画配信する。
- ・データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】

- ・受講後、毎回小テストを実施して学習状況を確認している。受講生には、何度でも再受験可能とすることで充実した復習を促している。
- ・毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は4～5題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
- ・小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
- ・小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
- ・小テストは、段階的に理解を深められるよう構成し、また、回答に対しても、正誤に応じて適切なフィードバックを行う。

8. 学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

- ・難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。
- ・リアルタイムで参加している学生には、できるだけ声をかけて質問する。
- ・緊張や不安をできるだけ早い段階でなくすような雰囲気（話し方等）と内容（一方的な講義ではなく学生同士のかかわりを多くとる）にする。

【質疑応答】

- ・遠隔授業で最も大切なことは受講者との個別のやり取りを迅速に行うことだと思われるので、質問やメールのしやすい環境の整備と、迅速な対応を心掛けている。
- ・オンデマンド型であるが、Zoomで質問できる時間を設定している。

【学習支援】

- ・授業外でも質問しやすくなるように、Zoomでの質問時間（自由参加）を設定する。
- ・毎週同じ時間にZoom質問コーナーを設ける。動画の視聴と課題への取り組みの後に質疑応答を行うことで、学生の理解度を深める。
- ・感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている個所を見つけるようにして、それに対応する。

9. その他

【感染対策】

- ・クラスを「課題」「実技」のグループに分け時間で入れ替えを行った。

3. 後期授業改善アンケート結果を踏まえた 各学部内 F D について

後期授業改善アンケートの実効性を高めるため、各学部および全学教育開発センターにおいて以下の意見交換が行われた。

文学部

12月16日（水）の文学部教授会内で、後期授業アンケートの集計結果をもとに、検討会が実施された。はじめに学部長より、本年度はとくにオンライン授業における学生の意見が集計されていることと、集計結果に基づいた各項目の数値について説明があった。その後、教員間での意見交換を行った。

確認された課題は、主に以下の二つであった。ひとつには、「授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることができますか」の項目で、質問をしたことがない学生が多いこと、もうひとつには、「授業担当者から課題へのフィードバックは行われていますか」の項目で、フィードバックを確認していない学生が多いことであった。

これについては、下記のような提言があった。

- ・ オンデマンド型授業であるため、授業前後の時間に学生とコミュニケーションをとれないのが理由と考える。TALES 上に「質問箱」を設けたが、ほとんど利用者はいなかった。改善案としては、オンデマンド型授業とは別に、ライブ（Zoom）で質問を受ける時間（自由参加）を 2 回程度設定するなどの方法を検討したい。
- ・ フィードバックはできるだけ早いほうが、学生の意識にも残りやすく、後の学習効果も期待できる。可能な限りタイムラグをなくしたい。

また意見交換においては、「授業の進度は適切ですか」「課題量は適切ですか」「意欲的に取り組んでいますか」などの項目では、比較的期待に沿う結果が示されており、前期には手探りであったオンライン授業の実施でも一定以上の成果が得られていると評価する意見もあった。これについては、さらに教員間の情報交換を積極的に行い、IT 技術的な面においても、授業運営においても、より効果的な方法を共有することが重要であるとの提言があった。

経済経営学部

令和 3 年 1 月 20 日の教授会において、後期授業アンケートの結果に関する学部教員による意見交換が行われた。またその後は電子メールを活用した意見交換も実施された。以下にその報告を行う。

- ・授業外での学習支援（問 9）について、他学部と比較した場合に「質問したことがない」学生の割合が少なく、逆に「受けられる・ある程度」の割合が高いことは結果として好ましく、教員の学習支援の充実を反映しており、学生の満足度の向上に資するものがあるのではないか。
- ・担当教員からのフィードバック（問 10）について、他学部と比較した場合に「行われている・ある程度」の割合が高いことは結果として好ましく、教員の学習支援の充実を反映しており、学生の満足度の向上に資するものがあるのではないか。
- ・データを見る限り、いずれの項目も満足度が高めで、初めてのオンライン講義でありながら、先生方が大変努力されたことがよくわかりました。
- ・予習復習時間の質問（問 12）で本学部の学生の授業外学習時間が他学部と比較してかなり少ないのが気になりました。3 時間以上とした学生は 2 % しかいません。課題量に配慮するようにという通知があり、配慮したつもりでしたが減らしすぎた部分もあったのでしょうか…。
- ・（問 12）の結果により、予習及び復習・課題作成等を含めた学習時間が少ないことを感じ、今後は穴付き講義資料、授業中の小テストやミニ課題等の方法をより積極的に活用し、学生が自ら時間を掛けて学習に取り組むように努めていきたいと思います。
- ・この授業には本来どういう授業形態が相応しいと思いますか（問 14）について、主に対面授業の数値がもっと高い値を示すと思っておりましたが、9.の授業担当者の授業外での学習支援や（問 10）の授業担当者からの課題へのフィードバックを充実させることにより、必ずしも対面授業でなく主にオンデマンドの動画提示授業等であっても、ある程度は学生に満足して頂けるということが分かりました。
- ・また、学生は Zoom 等を用いたリアルタイム授業よりも経済経営学部等（文・心理・全学でも）ではオンデマンドの動画提示授業の方を好まれるということが分かりました。
- ・教員にとっては（個人的には）、リアルタイム授業の方が臨場感があり、より実際に近い授業が提供できるので好ましいと思っていました。
- ・好意的な回答傾向がみられるのは F D 研修の成果もあるのかなと思います。
- ・勉強時間が長い人が他学部に比べてとても少ないですね。
- ・前期はレポートが多くて大変だという学生が多かったように思いますが、後期は教員が課題を減らしたのか、学生は後期あまり勉強時間をかけていないということでしょうか？
- ・適正な課題量がどの程度なのか、知りたいですね。

法学部

-
- ①実施日時 2 月 9 日 16 時 30 分～17 時 20 分（令和 2 年度第 15 回教授会後）
 - ②参加者 法学部専任教員全 13 名（17 時以降他会議で 3 名退席）
 - ③実施テーマ 遠隔授業に関する情報共有・意見交換

④使用資料 「アンケート結果を踏まえた授業改善方法」の法学部教員コメント

⑤実施概要

前期遠隔授業に関する学部 F D（9 月実施）で、遠隔授業の全般的運営方針については議論、改善共有を行なったので、今回の後期授業改善に関する F D では、遠隔授業に関して下記のような細かな諸点の議論・改善共有を行なった。

➤一部の学生が TALEs 締切「0 時」設定で日付を誤解するトラブルが数件あった。

⇒改善策 ①履修ガイダンス等での注意喚起

②日付更新時刻に設定する場合は法学部では「23 時 59 分」に統一

➤TALES の使用上の注意点

「課題」への学生コメントは教員に通知されない。学生の放置にならないよう注意が必要。

➤遠隔・対面両形式への学生からの意見・反応等

タイミングやサンプルの採り方で様々な情報・数値があるため、分析が難しい。今後も慎重に分析する必要がある。

➤ゼミの遠隔化事例

・欠席の多かった学生の出席率が改善する場合がある。

・リアルタイムで共有編集できるソフトを使用することで、レジュメ・文章・パワポ等の指導を遠隔でも効果的に実施できる。

➤マインド・マップの授業利用

・学生の関心を高めることができるが、連続的な利用は飽きも見られるので、要所での利用が望ましい。

心理学部

<授業形態について>

・オンデマンド型授業を希望する割合が対面授業を希望する割合よりも多く、前期に比べて対面授業を希望する割合がかなり減少しており、学生がオンデマンド型のスタイルに慣れてきたことが一因となっているのではないかという意見があった。

・学生のコロナに対する警戒から、オンデマンド型を希望する割合が増えたのではないかという意見があった。

<アンケート方法・回答率について>

・TALES を用いた方法は、すぐに結果が確認することができるため、従来の方法よりも良いという意見が多かった。

・今回は自由記述による回答がなかったが、今後は自由記述の項目もあって良いのではという意見があったが、好ましくない表現があった場合はどう対処するのかなどの意見もあった。

・対面授業で実施した科目では、アンケート項目が妥当であるかの検討が必要ではという意見があった。

- ・今回はアンケートの回答率が従来の方法のよりも低かったため、今後のシステムや周知方法を改善する必要があるのではないかという意見があった。

<その他>

- ・前期にオンライン実施した科目を後期に対面授業に変更したところ、学生の満足度が上昇したようである。やはり実習系の科目は、対面で実施することが好ましいことが確認された。
- ・比較的学生からポジティブな評価が多かったが、そのことが授業の予習復習の時間に影響しているのではという意見があった。
- ・授業担当者からの課題のフィードバックについて、例えば授業内容の質問などのフィードバックの際、全体でフィードバックを行ったり、いくつかの質問をピックアップしてフィードバックした場合は、個別でのフィードバックではなかったり、フィードバックされない質問もあるので、学生側がフィードバックをされていないと認識しているのかもしれないという意見があった。
- ・授業の難易度について、例えば資格関係の授業は、資格試験に必要な内容や範囲を扱うため、学年によっては難しく感じる場合もあるのではないかという意見があった。
- ・アンケート結果のフィードバックについて、教員によってやり方などが異なるため、学生がフィードバックに気付いていない場合もあるため、フィードバック方法を明確するのが良いだろうという意見があった。
- ・学生ヒアリングにおいて、シラバスが記載されていないという意見があったが、実際にはシラバスは記載されており、システム上の問題で一時的に見られなくなっていたとのことで、シラバスが作成されていないわけではないことがわかった。
- ・今回は TALES 上で、各教員 1 科目のみの実施であったが、他の科目でも授業改善アンケートを実施することは可能なのか？また、その場合、同じフォーマットのアンケートを使用することは可能なのか？という意見があった。

現代生活学部

日時：2021 年 1 月 20 日(水)15:00～16:00(教授会前)

場所：Zoom

出席者：辻川学部長(司会)、新宅学科長、戸倉学科長 以下五十音順、敬称略

(食物栄養学科) 阿部、石塚(記録)、伊藤、岩橋、木村、佐伯、中、藤原、藤村

(居住空間デザイン学科) 大里、金谷、北澤、竹内、間瀬、矢部、小菅

欠席者：柳

オブザーバー：小舘

1-全学の授業改善アンケート結果の報告(辻川学部長)

回答率が 50%弱と少ないため信頼性には疑問が残るが、概ね他学部と同様の結果であった。授業の進行速度・難易度・課題量等が、速い・難しい・多いという学生の割合がやや多い傾向にあった。

2-各教員からの報告(抜粋)

- ・実施した授業形態が良いと回答する学生が多いと思われる。
- ・音声付きパワーポイントのオンデマンド授業では、自宅ですべて、何回も復習できるので自分のペースで学習できるという学生からの評価があった。
- ・Zoom を用いたオンタイム授業でも対面授業に比べて質を落とさないよう工夫した。
- ・Zoom で手元を写す WEB カメラを活用することによって、対面授業よりも教育効果があがる面があったので対面授業に戻っても取り入れていきたい。
- ・遠隔授業で TALES を使い、便利な機能があることに気づけたので、対面授業に戻っても TALES は活用していきたい。

3-学生ヒアリング結果の報告(辻川学部長)

全ての結果を共有し、下記問題点について改善の必要性があることを共通認識した。

- ・コロナ対応のためか、シラバスに記載のないルールが実施された。
- ・実習授業で終了時間を大幅に超える授業があった。
- ・実験実習の間に Zoom 講義を自習室で受ける場合、周囲の声や発言が他者の学習の障害になった。

4-自己点検評価等から見出された教学マネジメントに関わる課題(辻川学部長)

平成 31 年 2 月 13 日付「中央教育審議会 大学分科会 教学マネジメント特別委員会」第 3 回資料 立命館大学 教育開発推進機構 沖裕貴先生の資料を紹介の上、下記事項の依頼があった。

○教務委員会を中心に学科で検討する事項

1. ディプロマポリシーに対応した学習成果の具体的な把握・評価方法の開発と運用
✓卒業研究のルーブリックを用いた評価
2. カリキュラムマップおよびツリーと対応させたナンバリングの具体的な運用方法
✓他大学の運用方法を調査
3. 実学プロジェクトを含めたアクティブラーニングの教育効果についての検証方法

○担当教員個人で検討する事項

1. 担当科目のルーブリック作成など、客観性や厳格性を担保した成績評価方法

教育学部

教育学部では、2020 年度後期授業改善アンケートの結果を、12 月 23 日に行われた学科会議内で共有した。その後、各教員の意見を TALES で集約し、全体での意見の共有を行った。この F D 活動では、以下のような意見があった。

- ・ネットの不具合で参加できない学生には当日のパワーポイント資料を TALES にアップするなどしてフォローした（自宅のネット環境に問題があり、毎回受講できない場合には大学で受講するよう伝える）。3 回欠席した学生にはメールで連絡し注意を促すとともに、C C でアドバイザー教員にも連絡を入れるようにした。演習の授業だったので、ブレイクアウトルームを用いて学生のグループディスカッションの時間を多くとるよう工夫した。

- ・遠隔授業での課題の出し方について、その日の遠隔授業の授業資料の中に「ここが課題となる」旨を示しました。また課題をするには資料を再度見なければできないように、課題の文章から詳細な内容を意図的に外すという工夫をしました。
- ・独立行政法人教職員支援機構の教科調査官による新学習指導要領の解説や大分県教育委員会をはじめ公開されている授業映像、全国大会レベルの研究紀要や学習指導案、授業記録（写真や活字）など、可能な限り視覚的な資料や最先端の情報を効果的に活用し、実践的な指導力が身に付くよう授業の工夫・改善を図った。
- ・資料については、できるだけ普通の講義に近い話し言葉で書くことを心掛け、毎回フィードバック課題を通し、学生の理解度を確認しながら適宜内容や表現を変更しつつ、授業を進めた。TALES の感想欄には「苦手な教科ですが教え方がとてもわかりやすく楽しく関心を持って学んでいます。PDF もとても見やすいです。毎回全員の課題のフィードバックがあるため課題が提出できているかの確認だけでなく様々な人の意見を知ることができ勉強になっています。」等、特に資料を話し言葉で記述していることが好評であった。
- ・日本語ドリルとして言葉に関する小テストを毎回行ったが、日本語ドリルはやや難易度を高く設定しないと学習が深まらないと思われる。また、課題の提出を忘れることが多いようなので、締め切り前に提出を促すメール連絡が欠かせないと思われる。遠隔授業では、課題提出をどう行うかが問題だが、課題のパターンを一定にしたり提出期限を課題名に明示したりと、学生が混乱しないように気を配ることの必要性を実感した。
- ・当該授業は、全時間を Zoom でリアルタイム授業を実施した。英検対策という授業の性格上、授業内容を4つ（後半は3つ）のレベルに分け、時間帯も分け、複数のレベルを受講してもよいという形をとった。資料も課題提出内容もレベルごとに異なったの作成という形で、受講者の英語力や希望に沿うように工夫を行った。

全学教育開発センター

実施日：2020 年 12 月 16 日、15：00～

実施場所：6 号館 6201 教室 参加教員数：13 名

■授業運営で難しいと思われた点

- ・TALES 上での学生へのアナウンスメントが上手く伝わらない。
- ・適切な課題量を出しているつもりでも学生にとれば多すぎる。
- ・理解度を十分確認しながら授業を進めているつもりだが、学生にとれば早すぎる。
- ・対面でないので語学の発音の練習を行うのが難しかった。
- ・毎週 Zoom で授業を行うのは、学生に負担がかかっている。
- ・TALES の使い方が分からないとの問い合わせが学生からけっこうあった。
- ・授業の進度について、早すぎる・遅すぎると学生間で意見が分かれている。
- ・質問をしてくれる学生もいるがしてくれない学生も多い。
- ・教員が思っているよりも学生は課題をこなすのに時間がかかっている。
- ・Zoom を使って講義しているが、学生の反応があまり良くない。

- ・授業が早く分かりにくいという学生の声があった。
- ・小テストの回答を考えず適当に答えている（＝選択している）学生がいると思われる。
- ・Zoomでの顔出しを学生が嫌がる。
- ・授業内容に対し得意な学生と不得意な学生があり、その差が大きい。
- ・Zoomを使ったとしても対面でしかみられないこともある。

■授業運営で上手くいったと思われる点

- ・語学の発音を録音して送ってもらう課題には一定程度的手ごたえがあった。
- ・学生の授業内容に対する興味関心は教員側にもよく伝わってきた。
- ・TALESのフォーラム機能を使って時々学生の様子を気にかけるようにした。
- ・プレゼンテーションに教員からのコメントを入れ、双方でコミュニケーションを取る。
- ・学生も教員も前期よりもオンライン授業に慣れてお互いにやりやすかった。
- ・ディスクジョッキーのようにリクエスト（学生からの質問）と答えを録音して学生が好きな時に聞けるようにしている。
- ・授業の冒頭で面白いレポートを紹介している。
- ・対面が苦手な学生もあり、その学生からすると顔出しをしないオンデマンド授業は積極的に参加することができる。
- ・学生が授業内で気になったことをピックアップして共有している。

■今後の課題

- ・課題の量が多いという声も学生から聞くが、量は落とさず質の面でもう少し工夫したい。
- ・フィードバックが弱かったと思うので今後はもう少し増やしたい。
- ・毎週課題を出すのはやめ、一定期間にまとめて課題を出し、学生のペースで課題をできるようにする。
- ・Zoomの授業は毎週ではなく時々実施するようにする。
- ・学生が自立して学習できる教育方法を取り入れる。
- ・課題量が多いとのことであるが、量よりもレベルを少し調整したい。

■学生の様子など、気が付いたこと

- ・前期よりも学生からのメールやメッセージが減った。

4. 全学教育開発センターにおける検証・検討について

アンケート結果を踏まえ、全学教育開発センター F D 推進検討チームにおいて以下のとおり検証・検討をおこなった。

アンケート実施方法およびアンケート項目について

全学教育開発センター F D 推進検討チームは、今年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う授業形態の変更に合わせて授業改善アンケートの実施方法およびアンケート項目について、以下の通り検討した。

- 1) 例年は、各対面授業内で紙ベースのアンケートを配付・回収するという形で実施していたが、多くが遠隔授業となったことで、従来の方法でアンケートを実施することができなくなった。遠隔授業は原則 TALES にて実施されていることを踏まえ、TALES の各授業コース内にアンケートを設けることとした。
- 2) アンケート項目は、対面授業、遠隔授業いずれにもあてはまる項目とした。全学教育開発センター運営委員会で出された意見を踏まえ、14 項目を設定した。

アンケート結果について

全学教育開発センター F D 推進検討チームは、授業改善アンケートの結果を受け、以下の検証をおこなった。

◆2019 年度と 2020 年度の比較

今年度は、多くの授業が遠隔で行われたことから、設問項目・内容を遠隔授業にも当てはまるものに大幅に改めた。また、集計方法も昨年度と異なるため、昨年度の結果の全てについて同等に比較することはできなかった。比較するに当たっての制約は次の通りである。

- (1) 今年度前期はアンケートを実施しなかったため、後期のみの比較となった。
- (2) 昨年度は回答学生の所属学科別での集計であったが、今年度はアンケート対象科目の開講主体学部別での集計であったことから、学部別・学科別の比較は行わず、全体での比較だけとした。
- (3) アンケート項目の内容および選択肢が類似するものについてだけ、比較を行った。ただし、それらについても、あくまでも「類似」項目の比較としてご覧いただきたい。
- (4) 昨年度と比較して、割合が大きく変化している項目もあるが、その理由を特定するための詳細なデータがないことから、ここでは、数値の変化を指摘するにとどめる。

設問 2.授業内に配布あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿って適切なものですか。

(2019) 教材（テキスト、配付資料等）は、授業内容の理解に役立っていますか。

(年度)	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない
(2020)	62.1	33.5	3.3	1.1
(2019)	47.61	38.88	8.05	4.24

「適切である」の割合は、昨年度より 14.49%高くなっている。「適切である・ある程度適切である」の割合も、昨年度の 86.49%に対して、今年度は 95.6%と、9.11%高くなっている。

設問 5.あなたにとって授業内容は関心を持てるものですか。

(2019) この授業の内容に興味・関心がわき、さらに深く学んでみようと思いますか。

(年度)	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない
(2020)	35.4	51.5	10.3	2.9
(2019)	30.95	48.03	15.64	5.09

「関心を持てる・ある程度関心を持てる」の割合は、昨年度の 78.98%に対して、今年度は 86.9%と、7.92%高くなっている。

設問 7.授業担当者は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。

(2019) 授業担当者は学生の理解度・レベルを考慮して授業を進めていますか。

(年度)	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない
(2020)	30.8	51.0	13.4	4.8
(2019)	40.42	45.20	9.96	3.89

「進めている」の割合は、昨年度より 9.62%低くなっている。「進めている・ある程度進めている」の割合も、昨年度の 85.62%に対して、今年度は 81.8%と、3.82%低くなっている。

設問 13.あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。

(2019) あなたはこの授業を熱心に受けていますか。（私語や居眠り、スマホ操作等はしていませんか）

(年度)	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない
(2020)	35.5	52.4	9.0	3.1
(2019)	36.51	45.88	12.97	4.38

「意欲的に取り組んでいる・ある程度意欲的に取り組んでいる」の割合は、昨年度の 82.39%に対して、今年度は 87.9%と、5.51%高くなっている。

◆全体の傾向および科目を開講する学部・全学教育開発センターの傾向・比較

設問 1. 授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。

全体では、58.2%の学生が「行われている」、31.5%の学生が「ある程度行われている」と回答し、89.7%の学生が積極的な回答をしているが、「シラバスを見ていない」と回答した学生も 7.7%いた。

科目開講学部別（以下、「学部別」と表記する）でも、どの学部でも 86~93%と高い割合の学生が積極的な回答をしているが、現代生活学部と教育学部で「シラバスを見ていない」という回答が 10%台に乗っている。

設問 2. 授業内に配布あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿って適切なものですか。

全体では、62.1%の学生が「適切である」、33.5%の学生が「ある程度適切である」と回答し、95.6%の学生が積極的な回答をしている。

学部別においても、いずれの学部でも積極的な回答率が 94~99%と高い率を占めているが、特に文学部で 99%と特筆すべき数字になっている。

設問 3. あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。

全体では、79.8%の学生が「適切」だと回答したのに対し、12.9%が「やや速い」、3.6%が「速い」と回答しており、16.5%の学生が多少なりとも速く感じていることがわかる。

学部別では、「適切」という回答をした学生が 72%~86%を占め、「やや速い」あるいは「速い」と回答した学生の割合が 12%~23%だが、法学部では「適切」が 72%に対し、「やや速い」あるいは「速い」と回答した学生が 23%となっており、他学部開講科目よりもやや高くなっている。

設問 4. あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。

全体では、55.1%の学生が「適切」だと回答し、28.0%が「やや難しい」、10.8%が「難しい」との回答をしており、38.8%の学生がある程度難しく感じていることがわかる。

学部別では、文学部では「適切」だと回答した学生の割合が全学部の中でもっとも高く 65%で、難しく感じている学生の割合はもっとも低く 29%であった。これに対して、法学部では「適切」だと回答した学生の割合が全学部の中でもっとも低く 50%で、難しく感じている学生の割合がもっとも高く 43%となっている。

設問 5. あなたにとって授業内容は関心を持てるものですか。

全体では、35.4%の学生が「関心を持てる」、51.5%の学生が「ある程度関心を持てる」と回答し、86.9%の学生が関心を示している。

学部別では、文学部で関心を示している割合が92%と高かったのに対して、現代生活学部では83%に止まった。

設問6．あなたにとってこの授業における課題量は適切だと思いますか。

全体では、75.9%の学生が「適切」だと回答し、14.3%が「やや多い」、6.3%が「多い」と回答しており、20.6%の学生が多少なりとも課題量が多いと感じていることがわかる。

学部別では、「適切」という回答をした学生は、文学部の81%に対して、教育学部では70%で、「やや多い」「多い」と回答した学生は、文学部の15%に対して、教育学部で27%と、学部間の差が大きかった。

設問7．授業担当者は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。

全体では、30.8%の学生が「進めている」、51.0%の学生が「ある程度進めている」と回答し、81.8%の学生が積極的な回答をしている。

学部別では、75~88%の学生が積極的な回答をしているが、文学部で88%と高かったのに対して、法学部、教育学部、現代生活学部でそれぞれ75%、76%、78%と80%を下回っている。

設問8．授業担当者の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。

全体では、34.7%の学生が「分かりやすい」、46.1%の学生が「ある程度分かりやすい」と回答し、80.8%の学生が肯定的な回答をしている。

学部別で見ても、全学部で肯定的な回答が77~85%を占めており、10%を超える大きな開きは見られない。

設問9．授業担当者から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。

全体では、29.0%の学生が「受けられる」、25.9%の学生が「ある程度受けられる」と回答し、54.9%の学生が積極的な回答をしているが、残念ながら5.9%の学生が「あまり受けられない」、2.6%が「受けられない」と回答し、8.5%が消極的な回答をしている。また、「質問をしたことがない」と回答した学生が36.6%いる。

学部別では、「受けられる」「ある程度受けられる」と回答した学生の割合が、教育学部の48%に対して、心理学部で62%となっており、「あまり受けられない」「受けられない」と回答した学生の割合は、心理学部の5%に対して、法学部で13%と学部間で多少の開きが見られる。心理学部では、積極的な回答が全学部の中でもっとも多い62%で、消極的な回答が全学部の中でもっとも少ない5%であることから、心理学部開講科目では比較的学習支援が受けやすいと感じている学生の比率が高いと思われる。

設問 10. 授業担当者から課題へのフィードバックは行われていますか。

全体では、33.5%の学生が「行われている」、29.0%の学生が「ある程度行われている」と回答しており、62.5%の学生が積極的な回答をしている。一方で、12.0%の学生が「あまり行われてない」、11.2%が「行われていない」と回答し、23.2%が消極的な回答をしている。

学部別では、「行われている」「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、心理学部の73%に対して教育学部では51%となっており、「あまり行われてない」「行われていない」と回答した学生の割合は、経済経営学部で16%、教育学部で38%となっており、学部間の開きが大きい。

設問 11. あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。

全体では、18.4%の学生が「力がついてきている」、55.6%の学生が「ある程度力がついてきている」と回答し、74%の学生が積極的な回答をしているのに対し、15.4%の学生が「あまり力がついていない」、4%が「力がついていない」と回答し、19.4%が消極的な回答をしている。

学部別では、積極的な回答をした割合が、文学部と経済経営学部の79%に対して、現代生活学部で69%となっている。また、消極的な回答の割合は、文学部の12%に対して、現代生活学部では23%となっており、学部間の差がやや大きい。

設問 12. あなたは予習・復習、準備、課題作成も含めて、この授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか（授業時間も含める）。

全体では、「30 分～1 時間」がもっとも多く、34.9%を占めている。続いて「1 時間～2 時間」が32.2%、次に「30 分未満」が18.2%となっており、授業 1 回あたりに費やす学習時間が「2 時間以内」と回答した学生は85.3%、「1 時間以内」の学生は53.1%となっている。

学部別では、「2 時間以内」と回答した学生の割合は、文学部 84%、経済経営学部 94%、法学部 82%、心理学部 84%、現代生活学部 82%、教育学部 77%、全学教育開発センター89%となっている。また、「1 時間以内」と回答した学生の割合は、文学部 51%、経済経営学部 66%、法学部 53%、心理学部 49%、現代生活学部 50%、教育学部 40%、全学教育開発センター57%となっている。ここから、経済経営学部と全学教育開発センター開講科目に対する学習時間が、他学部開講科目に比べて少ないことがわかる。

設問 13. あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいますか。

全体では、35.5%の学生が「意欲的に取り組んでいる」、52.4%の学生が「ある程度意欲的に取り組んでいる」と回答し、87.9%の学生が積極的な回答をしている。これに対し、「あまり意欲的に取り組んでいない」と回答した学生が9.0%、「意欲的に取り組んでいない」と回答した学生が3.1%で、12.1%が消極的な回答をしている。

学部別では、積極的な回答をした学生の割合は85～92%で、いずれの学部開講科目に対しても、おおむね意欲的に取り組んでいると思われる。

設問 14. この授業には本来どういう授業形態が相応しいと思いますか。

全体では、「主にオンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業」がもっとも多く、33.0%を占めている。続いて、「主にオンデマンドの資料配布型授業」が 26.1%、次に「対面授業」が 25.7%となっており、「主に Zoom 等を用いた遠隔授業（リアルタイム）」がもっとも割合が低く、15.2%となっている。このことから、全体的にオンデマンド授業に対する需要が高いように思われる。

学部別では、かなりのばらつきがあるが、特徴的なところでは、文学部と法学部では「対面授業」という回答がもっとも多い。さらに、法学部では全体とは傾向が全く異なり、「対面授業」を希望する割合がもっと高く、続いて「主に Zoom 等を用いた遠隔授業（リアルタイム）」となっており、オンデマンド型の授業は 3、4 番手であるが、いずれの回答も割合としては大きな差はなく、すべて 20%~31%の間に収まっている。心理学部と現代生活学部では、「オンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業」の次に「対面授業」を希望する回答の割合が高い。一方で、全学教育開発センターの場合は、「主にオンデマンドの資料配布型授業」の割合がもっとも高く、36%を占めており、続いて「主にオンデマンドの動画（音声を含む）提示型授業」となっている。法学部を除いて、各学部とも「主に Zoom 等を用いた遠隔授業（リアルタイム）」の割合が低いが、中でも心理学部で 3%、文学部で 5%と、この 2 学部では特に割合が少ない。

最後に、今回のアンケート調査は、全体の回答率が 45.26%と非常に低く、また科目開講学部によって回答数にも大きな開きがあるため、あくまでも割合に対して記述しているに過ぎず、各学部の取組み等を評するものではない。

以上

学生ヒアリング

学生ヒアリングについて

学生ヒアリングの実施

学生から授業改善アンケートを中心に、授業、大学で学ぶ環境に関しての意見を聞く機会として、後期授業改善アンケート（11/9～21）の実施後に各学部または学科の全学教育開発センター運営委員が学生に対するヒアリングをおこなった。

1. 概要

- (1)実施時期：後期授業改善アンケート実施後（～12月下旬までに）
- (2)実施主体：学部または学科
- (3)対象者：各学部・学科の学生（10名ぐらいまで）
- (4)謝礼：図書カード 500 円分（※）
- (5)会議への報告：任意様式（A4：1枚程度）で全学教育開発センター運営委員会に報告
※監査時に問われる場合があるため、図書カードの配付リスト（学籍番号・学生氏名）が必要です。

2. 学生に聞いてもらいたいこと

【授業改善アンケートについて】

- (1)実施時期について
- (2)回数について
- (3)設問項目数について
- (4)その他運営方法についてのご意見はありますか？

【シラバスについて】

- (1)記載されている内容についてご意見はありますか？

【その他授業、学習環境について】

- (1)日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対しての意見、要望等がありますか？
- (2)今学期提供している、対面授業、Zoom によるリアルタイム授業、動画配信型授業、課題配布型授業の4タイプのうち、一番集中して（充実感を持って）学習できるのはどの授業ですか。
- (3)対面授業とオンライン授業を合わせたハイブリッド型授業で、一番困っていることは何ですか？

学生ヒアリングの結果への対応

学生ヒアリングの集計結果【別紙 1】については、全学教育開発センター運営委員会で報告し、情報共有をおこなった。その上で各学部長に報告し、学部または学科で必要と思われる事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼した。また、単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センター F D 推進検討チームで対応案を作成し、同運営委員会にて検討をおこなった【別紙 2】。

2020年度 学生ヒアリング集計結果

1.授業アンケートについて

(1)実施時期について

(文学部) ・ちょうどよい。
・ちょっと早い。
・最終回でよい。

(経済経営学部) ・もっと早い時期がよい 50%
・これでよい 50%

(法学部) ・早過ぎる0名 ・やや早過ぎる0名 ・現状でよい6名 ・やや遅い4名 ・遅過ぎる0名
※やや遅いため第4・5週くらいがよいとの意見が半数近くいた。

(心理学部) ・適切である(8名)
・少し遅い(4名)

(食物栄養学科) ・「よい」5人
・「もう少し早い方がいい」2人(4年生) 理由：フィードバックを早くするため
・「学期末がいい」1人(3年生) 理由：フィードバックがどうせ遅いから

(居住空間デザイン学科) どの学年の学生も一様に、現行よりも早い方が良い(授業開始後2～4 週間)との意見を述べていた。少しでも早く進行中の授業に意見が届き、改善がおこなわれることを希望していることがその理由であった。

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

(2)回数について

(文学部) ・ちょうどよい。

(経済経営学部) 意見なし

(法学部) 適切な実施回数 ・年1回0名 ・現状半期1回7名 ・半期2回3名 ・その他0名
※多くは現状でよいとの意見だったが、改善を終講時に検証すべきとの意見もあった。

(心理学部) ・適切である(12名)

(食物栄養学科) ・「前期1回、後期1回でよい」6人
・「もう少し多い方がいい」1人(4年生) 理由：こまめに調査して即時に生かしてほしいから
・「年に1回でいい」1人(3年生) 理由：前・後期でさほど変わらないから

(居住空間デザイン学科) 現行の期間内に1回で良いという意見で一致していた。

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

(3)設問項目数について

(文学部) ・ちょうどよい。
・項目に重複があると感じる。

(経済経営学部) 意見なし

(法学部) ・ちょうどよい9名 ・やや少ない1名
※やや少ないとの意見は、今年度は自由記述がなかったとの意見。

(心理学部) ・適切である(10名)
・もう少し多くても構わない(1名)
・もう少し少ない方がよい(1名)

(食物栄養学科) ・「今のままでよい」8人

(居住空間デザイン学科) ・特に変更の希望は無いという意見で一致していた。

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

(4)その他運営方法についての意見

(文学部) ・特になし

(経済経営学部) ・アンケート内容について このままでよい 90%、変えた方がよい 10%
変えた方がよい理由：オンラインの授業改善アンケートにも意見を書くところあったほうがよい。
・授業アンケート自体についてはこのまま継続でよい 100%
・(特に上級生)授業アンケートを受けて授業が改善されたか。
少し改善された 30%、よくわからない 60%、改善されなかった 10%
・授業改善アンケートで改善してほしいところが多い先生ほど改善する気が薄いように感じる
・オンライン授業でフィードバックがない先生は改善等に言及することもない。
授業改善アンケートでの集計結果やコメントなどが公開されると改善する気のない先生も改善するようになるのではないかと感じた。
・匿名性が守られたうえで公開なら問題はないのではないかと考えた。
・授業改善を行ったとしても実際に改善されたのかは分からない。
・厳しいかもしれませんが、まず、授業改善アンケートの時期が遅すぎるという点が一つ。特に今年は新型コロナウイルスの影響でかなり授業形式や勉強の仕方などで混乱した学生も多かったはず。前期が終わった時点で早急にアンケートを行い、後期に向けて改善すべきだったと思います。前期終わりにアンケートを受けた記憶がないので間違っていたらすみません。
・二つ目ですが、毎度毎度改善アンケートの結果を踏まえてこれからどうするかについて話す際、「ここはこういう決まりになっているので、残念ながら変えることができません。」と言っている先生方が多いように思います。本当にある事情があって変えることが出来ないのであれば、こちらで納得しますが、あまりにも聴き慣れた言葉なので、本当に改善する気があるのか？という気持ちになります。だからこうしてくださいという提案はないですが、良い言葉が返ってくることを期待したいと思います。内容は特に変えなくても良いかと個人的には思いますが、アンケートを実施するスパンはもう少し短くても良いかと思えます。
・アンケートしても改善されたかどうかよくわからなくて、例えば、先生が早口なので聞き取りにくいと意見出しても、先生はそうつもりではなくても無意識で早口で授業やっていて、仕方ないと思っています。
・授業が改善されたかを比較するときにアンケート結果を生徒に伝えて、改善したところが明確にわかる先生とアンケート結果からどのように改善しているのかわからない先生がいっぱいます。

(4)その他運営方法についての意見<つづき>

・授業改善アンケートに回答しましたが改善されたのかよく分かりません。一つの科目で授業改善アンケートについての結果がアップされ、先生がコメントしてくださり、アンケート後の授業の進め方が分かったのでも良かったです。授業改善アンケートの結果と先生のコメントが気になります。なぜ先生の担当している科目で受講人数が1番多い科目だけアンケートを実施しているのかが気になりました。少人数での授業の場合は授業改善アンケートは実施しなくてもよいような気がしますが、先生の担当科目の中でも大人数の授業は1つとは限らないと思うので、受講人数が1番多い授業以外にも大人数の授業は授業改善アンケートを実施するべきだと思います。

・今回はオンラインの授業がほとんどだったということもあり、先生から直接アンケートに答えてくださいというような声掛けがあまりなかったように思います。TALESに知らない間に提示されていて気づけば期限が切れているようなこともありました。なので各授業担当の先生にちゃんと案内をするように伝えた方がみんな答えてくれるのではないかなと思います。

・授業改善アンケート自身は、改善を試みるためにも、良いものだと思うため、これからも続けていて欲しい。が、改善アンケートの結果を見ても、改善をしない授業も少なからずあるため、仕方ない面は目を瞑るとして、少しは改善する努力を見せて欲しい授業がある。もう少し、授業改善アンケートの効力があっても良いのではないかと思った。

(法学部) ・来年以降もTALESでやって欲しい。
・TALESでも自由記述欄が欲しい。

(心理学部) ・アンケート結果からその後どのように変わったのかが明確にわかると良い。
・すべての授業でアンケートを実施してほしい。

(食物栄養学科) ・結果のフィードバック方法が教員によって異なるため標準化してほしい。フィードバックしない教員もいる。(4年生)
・フィードバック時期が遅いので、アンケートの必要性に疑問を感じる。授業改善に関して意見を言える場所をTALES等で作り、その都度要望に対応いただくという方法を提案したい。(4年生)

(居住空間デザイン学科) TALES 上のアンケートにも自由回答ができる設問がほしいとの意見があった。

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

2.シラバスについて(記載内容についての意見)

(文学部) ・探しにくい。
・今学期に開講されていない科目まで掲載されていて、紛らわしい。
・内容について変更してほしいことはないが、Webで表示したときに見づらい。背景を白にして欲しい。文字を大きくしてほしい。スマホ対応ページにしてほしい。
・シラバス記載の内容にしたがって、授業を行ってほしい。

(経済経営学部) 意見なし

(法学部) ・成績評価方法を一番みたいので、スマホで見やすいシラバスページの冒頭部分に記載して欲しい
・小テストやレポートの回数も記載して欲しい
・理解度に合わせた遅れではなく、教員の雑談でシラバス通りに進行していない授業があるのは問題だと思う。

2. シラバスについて（記載内容についての意見） つづき

- （心理学部）** ・教員による差が激しい。
・シラバスを開くまでの操作が面倒である。
・履修登録等の時に計画を立てやすいように、履修単位の内、必修科目や専門科目などの分類を記載して欲しい。
・コロナ禍で授業内容が大きく変更された授業もあり、そのためシラバスが白紙の授業があった。（授業内容を明確に示してほしい）

- （食物栄養学科）** ・もう少し成績評価のパーセンテージを細かく書いて欲しい。（3年生）

- （居住空間デザイン学科）** 1 年生では、文字が多く読み難さを感じるため、履修を検討する全てのシラバスを読んではないという意見があった。2・3 年生では、今年度のコロナ禍での授業運営について書かれていないルールが授業内で実施される等、シラバス記載と違う授業があるとの意見が出た。

- （こども学科・こども教育学科）** 意見なし

3. その他 授業、学習環境について

【日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対する意見、要望等】

- （文学部）** ・科目群（専門基礎科目、専門基幹科目など）ごとの習得単位数の示し方をもっとわかりやすくしてほしい。
・TALES上で、ログイン時間などを表示する必要はないと思う。コースの登録や、メールアドレスは、他の学生から見えないようにしてほしい。
・TALESでの課題提出は、時間を設定してカレンダーに表示されるようにしてほしい。
・TALESでの課題締切の時間を、00:00に設定するのはやめてほしい（23:59にしてほしい）。
・課題締切の時間を、土曜日に設定するのはやめてほしい。
・課題を提出させた場合は、必ずフィードバックをしてほしい。
・TALESの講義は90分で取り組める内容にしてほしい（たとえば、動画90分＋課題では、時間内に終わらない）。
・TALES上での動画は、必ずスマホでも見られるものにしてほしい。
・登録変更が可能な期間に、履修科目を変更したが、初回の授業や課題に取り組むことができなかった。考慮してほしい。
・メールで出席をとる授業は、メールを受け取ったことを返信してほしい。
・オンライン授業で課題が少なすぎるのは、不安である。
・中途半端に対面授業を増やすのではなく、すべてオンラインにしてほしい。

- （経済経営学部）** 意見なし

- （法学部）** ・図書館の開館短縮やP Cの学生貸し出し禁止などのコロナ対応規制を平常時に戻してほしい。
・レジュメ配布のみの遠隔授業はやめるかシラバスに明示するかして欲しい。
・ロビー等でも自習できる場所があるのはよい。

- （心理学部）** ・授業によって出席登録必要か不必要かとかバラバラで混乱するので統一してほしい。
・教員によって出席を授業時間内か一日中か分かれているので統一してほしい。
・授業時間が減るため、教室の設備の使用方法やトラブル時の対処方法の周知をして欲しい。
・ある授業の授業体制が杜撰であり、訂正があってもその報告がないことや間違いがあることに対して連絡する手段がないことに不満がある。また、別の授業では決まった時間に課題を出さず、アナウンスも無しに突然課題を出したり、期限の連絡がないなどの授業を改善して欲しい。
・コロナ患者が増える中、今ある対面授業が本当に対面でいいのだろうか？と不安になることがある。演習を伴う科目ならまだ分かるが、講義型の授業は対面よりもオンライン授業にした方が安心感はある。

【日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対する意見、要望等】 つづき

（食物栄養学科） ・一部の部屋だけでも21～22時頃まで使用を許可して欲しい。（4年生）

・“オンライン自習室”の開放を検討してほしい。休校期間中、クラスの数名と実施し国試勉強がはかどった。ネット上にもあるが、安全性の面から大学で用意してもらうと有り難い。（4年生）

（居住空間デザイン学科） 1年生では、実習授業の指導で授業終了時間を大きく超えることがあるケースについて、検討してほしいとの意見があった。2年生では、指定された教科書のページをまとめたノートを作成するといった課題は、時間や効果が適切かどうか疑問がある、或いはTALES 小テスト課題に対して他の解答もあり得ると考えられる場合であっても、処理上不正解となりそれに対する柔軟な対応がなされないと感じるケースがあった等様々な意見が出た。3年生では、官公庁作成のYouTube 動画を見て感想を書くことが授業とされることへの疑問等の意見があった。

（こども学科・こども教育学科） ・現在、18号館のPC演習室が自由に使用できない状態だが、使用できるようにしてもらいたい。
・家の通信環境が良くないので、Zoomの授業などでは、配慮していただけると、ありがたい。
・Zoomの時の授業の進め方などを、前もって伝えてほしい。
・大学に来る曜日が決まっているので、印刷が必要な資料については、早く教えてもらいたい。

【今期提供している4タイプの授業（※）のうち、一番集中して（充実感をもって）学習できる授業は？】

※対面授業、Zoomによるリアルタイム授業、動画配信型授業、課題配付型授業

（文学部） ・ケースバイケースである。
・科目によるが、Zoom以外がよい。
・対面授業がよい。

（経済経営学部） 意見なし

（法学部） ・対面 7 名 ・リアルタイム配信3名 ・オンデマンド配信 0 名 ・課題配布型 0 名
※画面越しは緊張感・集中感が維持できないとの意見が多い。

（心理学部） ・対面授業（8名）
・Zoomによるリアルタイム授業（1名）
・動画配信型授業（1名）
・課題配布型授業（1名）
・どれも同じ（1名）

（食物栄養学科） ・対面授業6人
・動画配信型授業2人(3年生)「特に公衆栄養学がいいが、動画でも理解しにくい科目もある」

（居住空間デザイン学科） 1年生では、対面授業（実習）と動画配信型（講義）という意見であった。動画配信型は見直し、聞き直しができるので自分の理解度に合わせられること、大学に来なくても良い日が1～数日できるのが良いということがその理由であった。2年生では、実習は対面授業、講義はその内容によって異なるという意見が出た。特に工学系の授業は質問をしたいケースが多いのでリアルタイム型が良く、そうでない授業はオンデマンド型が良いとのことであった。3年生では、対面授業という意見であった。

（こども学科・こども教育学科） 特になしという意見の人が多かったが、以下の意見も出た。
・対面授業という意見が多かった。少数意見として、課題配付型や動画配信型が行いやすいという意見もあった。なお、対面授業がゼミナール関係しかないので、判断ができないという意見もあった。

【ハイブリッド型授業（※）で一番困っていること】

※対面授業とオンライン授業を合わせた授業

（文学部） ・通学時間とオンライン授業の時間とが重なり、きちんと学習ができないことがある。

（経済経営学部） 意見なし

（法学部） ・遠隔時の資料印刷。
・遠隔の方が発言しにくい。
・遠隔参加が成績で不利になるのではという不安。

（心理学部） ・大学までの移動時間。
・対面とオンラインが同日の場合、自宅に帰るまで授業を受けられないこと。
・オンライン講義は講義によって出欠確認をしたりしなかったり、途中で進め方が変更になったりして何がどのような講義スタイルなのかわからなくなる。
・周りとの理解度に差が出てしまう。全員がこの日は対面授業、もしくはオンライン授業と決められているハイブリッド型授業は受けていないですが、ややこしくて間違えて欠席してしまう人もいると思うのでやめた方がいいと思います。
・主に課題配布型の授業において、出席のとり方や課題の締切などが一切統一されていないため、時間が経っても把握しづらい点。
・オンライン授業では質問がしづらいことです。
・対面とオンラインどちらも同じ日にあると、時間帯によってはパソコンの起動が間に合わない、などの問題が出ると思う。それを考慮すると、リアルタイム授業よりも動画配信型の方が柔軟に受けられるメリットもあると感じた。

（食物栄養学科） ・課題が多い 4人
・教職科目のリレー講義で何回目かによって対面と遠隔が混在している。(4年生)
・自宅が遠いので、対面授業と遠隔授業が混在していると、遠隔授業を受ける居場所に困る。(3年生)
・友達に会える機会が少ないので授業の疑問点を補足し合えない。(2年生)
「感染が心配」を一番に挙げる者はいなかった。
その他「花火を上げる予算があるなら学費の援助に回してほしい」という意見が聞かれた。

（居住空間デザイン学科） 1 年生は特に無いとのことであった。2・3 年生ではどちらも同様に、対面授業の時間的關係で学内でリアルタイムオンライン授業を受講しなければならない時、準備された自習室が他学生の話し声がしてうるさい、或いはその授業で声を出す必要がある時に周りに聞かれるので抵抗があり、発言や質問がし難い等の意見があった。また、大学の貸し出しカメラが顔がかなりアップになって映るので嫌だという苦言があった。

（こども学科・こども教育学科） 何もないという意見の人が多かったが、以下の意見も出た。
・通信環境が問題。Zoomだけでなく、TALESに入りにくいこともある。
・課題の提出を忘れそうになることがある。

2020 年度 学生ヒアリング集計結果の検討

(令和 2 年度第 13 回全学教育開発センター運営委員会[3 月 11 日]資料)

(令和 3 年 1 月 14 日開催第 10 回全学教育開発センター運営委員会議事録より)

各学部・学科で実施いただいた学生ヒアリングの集計結果は、資料 2 のとおりである。

今後、全学教育開発センター F D 推進検討チームにて内容を精査する。その結果、本委員会での検討が必要と考えられる事項については、次回以降に提示し、検討いただく予定である。システム関係など単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センターより関係部署に検討・対応いただくよう働きかける。

また、資料 2 は各学部長にも配付し、各学部・学科にて直接対応いただくのがふさわしい事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼する。

<各学部・学科にて直接対応いただくのがふさわしい事項>

↓

1 月 14 日に各学部長に資料を送付して、対応を依頼済。

<全体に関わる事項に対する「全学教育開発センター F D 推進検討チーム」での検討結果>

1. 授業アンケートについて

(1)実施時期について

・「もっと早い時期がよい」(授業開始後 2~4 週後)、「最終回でよい」等、様々である。

→ 現行のアンケートが、学期内の改善を目的としていることから、期中に行う必要がある。当該授業内で改善するには、アンケートは早く実施するに越したことはないが、早すぎた場合、授業が必ずしも軌道に乗っておらず、受講生は当該授業の全体像をつかみにくいと思われるため、現行の中間期に行うのが妥当だと考える。

昨年度までのアンケート用紙による方法では、外部業者による集計におよそ 1 か月を要するが、15 回の授業のうち、最後の 3~4 回は改善に充てることができることから、この方法を踏襲する方向で良いと考える。

(2)回数について

・現行通りでよいという意見が多かった。

→ 来年度も前後期 1 回ずつが妥当だと考える。(センター運営委員会で決定済)

・「改善を終講時に検証すべき」

→ 今後、実現に向けて要検討だと考える。

(3)設問項目数について

・妥当だとする意見が多かった。

→ 来年度もほぼ同数の設問項目とする。

・「項目に重複があると感じる」

→ 設問内容については、来年度に向けて再度検討するのが望ましいと考える。

(4)その他運営方法についての意見

・「来年以降も TALES でやってほしい」「TALES でも自由記述欄が欲しい」

→ 来年度は、予定通り対面で授業が行われる場合は、対面でアンケート用紙を使って実施することが決定されている。

【理由】①TALES では、回収率がかなり低くなる。②自由記述欄を設けた場合、中傷する内容が書かれていても、事前にチェックすることが難しい。かつ、そのような内容の書き込みが増えることが予想される。

・「全ての授業で実施してほしい」「大人数の授業は全て実施すべき」

→ アンケート用紙を使う方法では、事前の準備ならびに事後の集計に多くの手間と時間がかかり、実施が難しい。WEB 上で実施する場合も、膨大な科目数と回答数の処理が必要となることから、外部業者に依頼する必要がある、現行以上に経費がかかるため、実現は難しいと考える。

なお、毎学期 1 科目ずつに対してであっても、当該科目について確実に授業改善を行えば、自ずと当該教員が担当する他の科目についても、徐々に改善が行われるものと思われる。

・「改善してほしいところが多い先生ほど改善する気が薄い」「実際に改善されたのかわからない」「集計結果やコメントを公開すれば、改善する気のない先生も改善するようになる」

→ 意見聴取シート提出依頼時に、「結果を真摯に受け止め、なるべく早期に授業内で改善・対応内容を受講生に伝える」よう、強く促す（+運営委員からも促してもらう）以外に有効な方法はないと考える。

・「前期が終わった時点で早急にアンケートを行い、後期に向けて改善すべきだった」

→ 今年度前期は、開講時期が約 4 週間遅れたこともあり、期中でのアンケートはできな

かったが、後期での改善に向けて、前期末に行うべきであったと考える。

2. シラバスについて（記載内容についての意見）

・「今学期に開講されていない科目まで掲載されていて、紛らわしい」「スマホ対応ページにしてほしい」

→ 教学支援課で要検討。

・「遠隔授業での授業運営について書かれていないシラバスがあった」「教員による差が激しい」「成績評価の割合を細かく書いてほしい」「小テストやレポートの回数も記載してほしい」

→ シラバスにどの程度まで詳しく記載するかを教務委員会で検討し、統一した方針の下で、シラバス作成依頼ならびに学科教員によるシラバスチェックを行う必要がある。

3. その他 授業、学習環境について

【日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対しての意見、要望等】

・「TALES 上で、コース登録内容やメールアドレスが他の受講生に見えないようにしてほしい」

→ 副学長に対応を依頼済。

・個々の教員の授業運営に対する意見：「課題を提出させた場合は、必ずフィードバックをしてほしい」「自宅の通信環境がよくない場合、Zoom の授業で配慮してほしい」等。

→ 個々の教員が受講生の意見を受けて改善することが望まれる。

・学習環境に対する意見（教室の開放時間を延ばす等）

→ 学部で対応いただくのが良い。

【今期提供している 4 タイプの授業のうち、一番集中して学習できる授業は？】

【ハイブリッド型授業で一番困っていること】

・「遠隔時の資料印刷」「オンラインでは質問がしづらい」「学内でリアルタイムオンライン授業を受ける際、指定された自習室がうるさい」等。

→ 来年度は原則対面授業なので、この項目で挙がった意見に対する対応方法は、省略。また、対応するにしても、各教員ならびに教務委員会で対応いただく事項になる。

以上

F D フォーラム

F D フォーラムについて

2020 年度、全学教育開発センターでは計 2 回のオンラインでの F D フォーラムを開催した。また、外部の F D フォーラムについても積極的な参加を呼びかけた。詳細は以下の通りである。

第 1 回（2020 年 9 月 3 日）

日 時：令和 2 年 9 月 3 日（木） 10：40～12：10
演 題：「オンライン授業の設計を考える – リスク社会における学びを育む –」
講 師：岩崎 千晶 氏（関西大学教育推進部 准教授）
形 式：Zoom によるオンライン講演形式
対象者：本学教職員、非常勤講師
参加者：理事 3 名、教員 66 名、非常勤講師 42 名、事務職員 8 名、不明 3 名

本フォーラムは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から Web 会議システム「Zoom」で実施し、教職員 122 人が参加した。

岩崎先生から、関西大学教育開発支援センターでの取り組みの紹介を受けた後、コロナ禍という状況下で、多くの大学が従来とは異なる形での遠隔教育の実施を余儀なくされる中、今後、遠隔授業をどのように展開していくべきかについてお話いただいた。

オンライン授業においては、特に①学習目標②評価方法③教育方法の 3 点を確認しつつ授業を設計することが重要であるとの見解を示され、具体的には、①授業目標を従来の全 15 回で考えるのではなく、1 回の授業ごとに目標達成できる方法を考える（スモールステップ）、②小テストやレポート、プレゼンなどで、学生が目標到達度を判断できる評価方法を選び、学生がどう評価されるのかを理解できるようにするなど、これまでの前期のオンライン授業の実践を通じて得られた知見をもとに、遠隔授業を円滑に運営するためのノウハウやポイントを解説くださった。

関西大学では前期のオンライン授業アンケートに基づき、同一科目間の教員で課題のばらつきが出ないように情報を共有するようにしたり、学生の不満が多かった「資料配信のみ」の授業は後期からは取りやめる方針としてられたなど、具体的な施策についてもご紹介いただき、本学の教職員にとっても非常に示唆に富むフォーラムとなった。

第2回（2021年2月18日）

日 時：令和3年2月18日（木）10：30～12：00
演 題：「コロナ禍における学内オンライン授業の実践事例」
講 師：石塚 理香 教授（現代生活学部）、谷口 淳一 教授（心理学部）
大西 智之 教授（全学教育開発センター）
形 式：Zoom によるオンライン講演形式
対象者：本学教職員、非常勤講師
参加者：理事3名、教員67名、非常勤講師27名、事務職員10名、不明5名

本学では、2020年度前期においては、TALESを活用した遠隔授業を全面的に実施し、後期は対面授業も併用した「ハイブリッド型」の授業を展開してきた。約1年間にわたる遠隔授業のノウハウや知見を共有して課題を明らかにし、より一層の授業改善につなげることを目的として、本フォーラムを開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からWeb会議システム「Zoom」で実施し、112人の教職員が参加した。

今回は、「コロナ禍における学内オンライン授業の実践事例」をテーマに、全学教育開発センターの谷美奈准教授の司会進行のもと、食物栄養学科の石塚教授、心理学部の谷口教授、全学教育開発センターの大西教授が、順に、理系科目、大人数科目、外国語科目の3分野における遠隔授業の実践事例について報告を行った。

講演者からは、前期のオンライン授業への学生の反応や意見を踏まえた、動画や自学自習用の教材作成を工夫するなど、授業のブラッシュアップに向けた取組みが発表されたほか、主体的な学びを促す反転授業の重要性についても触れられた。また、対面授業と異なり学生の反応で授業理解度を知ることが難しいこともあり、習熟度の確認にレポート課題を活用すべきといった報告があった。「使いやすい教科書を指定する」「動画をコンパクトにまとめる」「Google Formを活用し課題提示する」など具体的な方策も多く上がり、授業改善に生かせるノウハウが示された。

Zoomのチャットではさまざまな質問が寄せられただけなく、参加者各自が実施してきた授業改善の取組みについても積極的な意見交換が行われた。

外部団体主催のFDフォーラム

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する第26回FDフォーラム（令和3年2月20日・21日・27日・28日/オンライン開催）および京都大学が主催する第27回大学教育研究フォーラム（令和3年3月17日・18日/オンライン開催）への積極的な参加を呼びかけ、以下の5名が参加した。

- 大西智之 全学教育開発センター教授
- 北本晃治 全学教育開発センター教授
- 間瀬辰也 現代生活学部居住空間デザイン学科教授
- 石田慎二 教育学部こども教育学科教授
- 中島剛 教学支援課長

公開授業

公開授業について

前期公開授業の中止

例年、各学部および全学教育開発センターにて授業を公開する教員を選出し、6月・7月に公開授業を実施しているが、今年度前期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い原則遠隔授業となったため、公開授業は中止とした。（※第2回全学教育開発センター運営委員会にて審議・承認）

後期公開授業週間の中止

例年、後期は11月下旬から12月上旬にかけての2週間を公開授業週間とし、全専任教員が原則として全授業科目を公開すること、少なくとも1科目を参観することを前提に授業を公開しているが、今年度後期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、多く授業が遠隔となったため中止とした。（※第4回全学教育開発センター運営委員会にて審議・承認）

全学教育開発センター 運営委員会

全学教育開発センター運営委員会

[2020年度]

全学教育開発センター 運営委員会	委員長	大西 智之	(全学教育開発センター長)
	委 員	花田 卓司	(文学部日本文化学科) (11月3日まで)
		西尾 元伸	(文学部日本文化学科) (11月4日より)
		河口 充勇	(文学部文化創造学科)
		日置 慎治	(経済経営学部)
		吉村 泰志	(経済経営学部)
		関 誠	(法学部)
		永石 高敏	(心理学部)
		石塚 理香	(現代生活学部)
		吉田 雅昭	(教育学部)
		谷 美奈	(全学教育開発センター)
		米田 準	(大学事務局次長)
		島本英一郎	(教学支援課長)
事務局スタッフ		榊井 謙一	(教学支援課)
		山田 晶	(教学支援課)

活動報告

4月9日	第1回全学教育開発センター運営委員会
5月7日	第2回全学教育開発センター運営委員会
7月9日	第3回全学教育開発センター運営委員会
9月3日	第1回FDフォーラム 演 題：「オンライン授業の設計を考える ーリスク社会における学びを育むー」 講 師：岩崎 千晶 氏（関西大学教育推進部 准教授）
9月10日	第4回全学教育開発センター運営委員会
9月11日	第5回全学教育開発センター運営委員会
9月～10月	各学部教授会等および全学教育開発センター教員会議において 「前期遠隔授業を受けての学部内FD」実施
10月15日	第6回全学教育開発センター運営委員会
11月9日～11月21日	後期授業改善アンケート実施
11月12日	第7回全学教育開発センター運営委員会
11月～12月	学生ヒアリング実施（各学部・学科）
12月10日	第8回全学教育開発センター運営委員会
12月15日	第9回全学教育開発センター運営委員会
12月16日	各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において 「シラバス作成のためのFD」実施
12月～2月	各学部教授会等および全学教育開発センター教員会議において 「後期授業改善アンケート結果を踏まえた学部内FD」実施
1月14日	第10回全学教育開発センター運営委員会
2月4日	第11回全学教育開発センター運営委員会
2月9日	第12回全学教育開発センター運営委員会
2月18日	第2回FDフォーラム 演 題：「コロナ禍における学内オンライン授業の実践事例」 講 師：石塚 理香 教授（現代生活学部） 谷口 淳一 教授（心理学部） 大西 智之 教授（全学教育開発センター）
3月11日	第13回全学教育開発センター運営委員会
3月16日	第14回全学教育開発センター運営委員会

以上

帝塚山大学全学教育開発センター運営委員会規程

制定 平成24年4月1日

(設置)

第1条 本学に全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議するとともに、それらを推進し、又はそれらに係わる諸問題の解決にあたることを任務とする。

(1) 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画、推進及び支援に関すること

(2) 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること

- ・教養科目群・語学関連科目群に関する基本理念、教育目標等の策定

- ・教養科目群・語学関連科目群に関するカリキュラムの整備

- ・教養科目群・語学関連科目群の教育内容・方法に関する企画及び推進

(3) 全学的なFDの企画及び推進に関すること

(4) 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること

(5) その他全学的な教育に関する必要な事項

(構成)

第3条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) センター長

(2) 帝塚山大学全学教育開発センター規程第4条第1項第2号及び第3号に定める職員のうちからセンター長が指名した者

(3) 各学部教授会から選出された各学科1名

(4) 事務局長（次長）

(5) 学部事務共通を担当する教学支援課長

(6) その他センター長が必要と認めた教職員

(任期)

第4条 前条第1項第1号、第2号、第4号及び第5号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合には、後任者が引き継ぐものとする。

2 前条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、2年とし、異動が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、センター長がその任にあたる。

(運営)

第6条 委員長は、運営委員会を代表するとともに、運営委員会を招集しその議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、委員以外の教職員に運営委員会への出席を求め、その報告又は意見を聴くことができる。

3 その他運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会においてこれを定める。

(幹事)

第7条 委員会に幹事を置き、教学支援課長（学部事務共通担当）をもってこれに充てる。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学協議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

全学教育開発センター F D 推進検討チーム

全学教育開発センターFD推進検討チーム

[2020年度]

メンバー	リーダー	谷 美奈	(全学教育開発センター准教授)
		大西 智之	(全学教育開発センター長・教授)
		小谷 早稚江	(全学教育開発センター准教授)

<活動内容>

■FDフォーラムに関する検討

今年度も従来通り年2回開催の方向で検討を進めた。

第1回はオンライン授業の設計をテーマに学外から講師を招き、Zoomによるオンライン講演の形式で開催することで検討を進めた。今年度前期は、新型コロナウイルス感染症の影響により全学的にオンライン授業が実施され、各教員が初めての取り組みに困惑しながらも工夫して取り組んだが、後期の授業開始に向けて前期の授業を振り返りながらオンライン授業の設計について再考する機会が必要であると考えられたからである。

第2回は、オンライン授業の事例紹介をテーマに学内から複数名の講師を選び、引き続きZoomによるオンライン講演の形式で開催することで検討を進めた。今年度前後期の試行錯誤を経て、オンライン授業のスタイルは整ってきたものの、来年度以降も遠隔での授業運営の可能性が否めず、オンライン授業のさらなる質の向上が求められることから、学内における異なる分野の授業実践の紹介と意見交換を行う機会が必要であると考えられたからである。

いずれも、当チームで開催時期ならびに講師の選定等を行った上で、全学教育開発センター運営委員会に提案した。具体的内容については、本報告集の「FDフォーラム」の項を参照のこと。

■授業改善アンケートに関する検討

➤ アンケートの実施方法および項目の検討

コロナ禍により、前期の授業改善アンケートの実施は見送られたが、後期においては、実施方法の変更ならびにアンケート項目・内容をオンライン授業にも当てはまるものに大幅に改め、全学教育開発センター運営委員会に提案した。

➤ アンケート結果の検証・検討

アンケート結果については当チームで検証・検討を行い、FD報告集に掲載することとした。

いずれも、詳しくは本報告集の「授業改善アンケート」→「4. 全学教育開発センターにおける検証・検討について」を参照のこと。

■FD報告集の内容・構成に関する検討

今年度は、FD報告集の「授業改善アンケート」の内容・構成について、以下のように変更することとした。(1)今年度前期は授業改善アンケートを実施しなかったため、後期のみを掲載する。(2)今年度の授業改善アンケートの集計方法では回答者の属性(学年・学科)別集計ができなかったため、学部間比較を科目開講主体別の比較だけに留めて行う。(3)昨年度との比較に関しては、昨年度と類似する項目だけを取り上げて全体的な比較を行う。

■その他の検討

2020年度全学教育開発センターFD推進検討チームの活動の総括を行った。

帝塚山大学全学教育開発センター規程

制定 平成24年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、帝塚山学園組織規定第25条の12及び帝塚山大学学則第63条の規定に基づき、帝塚山大学全学教育開発センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における全学的な教育施策の企画及び開発，教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援，並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画，推進及び支援に関すること
- (2) 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること
- (3) 全学的なFDの企画及び推進に関すること
- (4) 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること
- (5) その他全学的な教育に関する必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) センターに配属された本学の専任教員（任期制教員を含む）
 - (3) その他センター長が必要と認める教職員
- 2 センター長の選出，任期等に関する規程は別に定める。
- 3 センターに必要あるときは副センター長を置くことができる。副センタ

一長はセンター長が指名する。

(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(委員会・教員会議)

第6条 センターに、第3条に定める業務の円滑な実施に関する重要な事項を審議するため、全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及び全学教育開発センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

第7条 運営委員会及び教員会議に関する事項は別に定める。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、教学支援課（学部事務共通）において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規程の制定に伴い、「帝塚山大学全学共通教育センター規程」,
「帝塚山大学FD推進室規程」及び「帝塚山大学学習支援室規程」（平成17年7月29日制定）は、平成24年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成25年6月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

帝塚山大学
2020 年度 F D 報告集

2021 年 3 月発行

発 行 帝塚山大学
編 集 全学教育開発センター・教学支援課
住 所 奈良市帝塚山 7-1-1
T E L 0 7 4 2-4 8-9 4 2 9
F A X 0 7 4 2-4 8-6 3 6 4

E-mail kyogakushien@jimu.tezukayama-u.ac.jp
